

岐阜県の将来人口推計

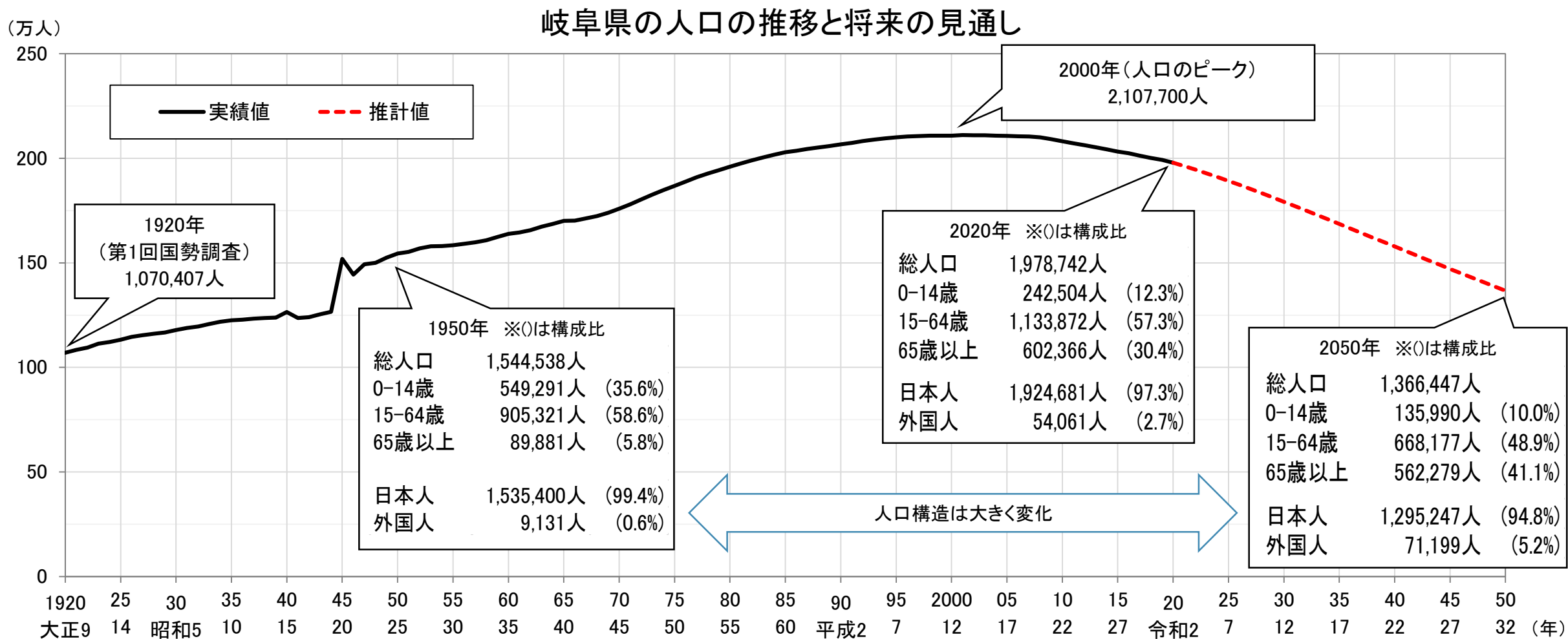
令和4年3月

岐阜県政策研究会人口動向研究部会

目次

将来人口推計結果の概要	3
1 将来人口推計作業の基本的な考え方	4
2 将来人口推計の前提条件	11
(1) 出生率の設定	11
(2) 生残率の設定	33
(3) 社会移動率の設定	43
(4) 外国人人口の設定	47
3 将来人口推計結果の詳細	50

30年後の2050年には137万人に（61万人の大幅減）



出典：総務省「国勢調査(1945年は「人口調査）」、総務省「人口推計(国勢調査による補間補正人口)」

※ 将来人口(2050年)は単位未満を四捨五入して表示しているため、計算が一致しない場合がある。

1 将来人口推計作業の基本的な考え方

将来人口推計は国勢調査結果が判明することにより実施

国勢調査	推計年	推計結果報告書	
2000年 (平成12年)	2001年 (平成13年)	県の将来人口推計	外部シンクタンクに委託
2005年 (平成17年)	2006年 (平成18年)	県の将来人口推計 (岐阜県人口・少子化問題研究会)	職員が推計
	2007年 (平成19年)	市町村別将来人口推計 (岐阜県の将来構想研究会) 県の世帯数将来推計 (岐阜県の将来構想研究会)	職員が推計
2010年 (平成22年)	2011年 (平成23年)	県の将来人口推計 (岐阜県政策研究会人口動向研究部会)	職員が推計
2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	県の将来人口推計 (岐阜県政策研究会人口動向研究部会)	職員が推計
2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)	県の将来人口推計 (岐阜県政策研究会人口動向研究部会)	職員が推計

推計は岐阜県政策研究会「人口動向研究部会」で実施

<研究会の役割>

- 人口動向の詳細な分析
 - ・ 分析は2020年国勢調査結果を中心に実施
- 県の将来推計作業の実施

<研究会の構成>

- 清流の国づくり政策課地方創生係、統計課企画分析係で構成
- 推計内容の検証及び客観性の担保のため、人口推計に精通した外部の専門家をアドバイザーとして委嘱

<アドバイザー>

- | | |
|---------|----------------------------|
| ・ 竹内 治彦 | 岐阜協立大学学長（県人口問題研究会座長） |
| ・ 伊藤 薫 | 岐阜聖徳学園大学経済情報学部 教授（人口移動が専門） |
| ・ 和田 光平 | 中央大学経済学部 教授（将来人口推計が専門） |

将来人口推計の基本的なスタンス等

1 推計の基本的なスタンス

- 将来の県人口を的中させることを目指した予測を行うものではなく、人口の年齢構成、自然動態及び社会動態の状況といった、これまでの実績を基にして、現在までの傾向が続くとどのような見通しになるのか、統計的な手法に基づき推計を行う。
- 推計結果は様々な政策立案等を議論していく材料として役立てる。

2 推計期間

- 基準人口は、2020年国勢調査の確定値（不詳補完値※）。
※不詳補完値とは、集計結果（原数値）に含まれる「不詳」となっている数値をあん分によって補完した数値のこと
- 県の将来人口（外国人を含む総人口）を男女、年齢各歳別に推計する。
- 推計期間は、2021-2050年の30年間とする。

基準人口は2020年国勢調査の確定値（不詳補完値）

2020年国勢調査結果 岐阜県人口（不詳補完値）

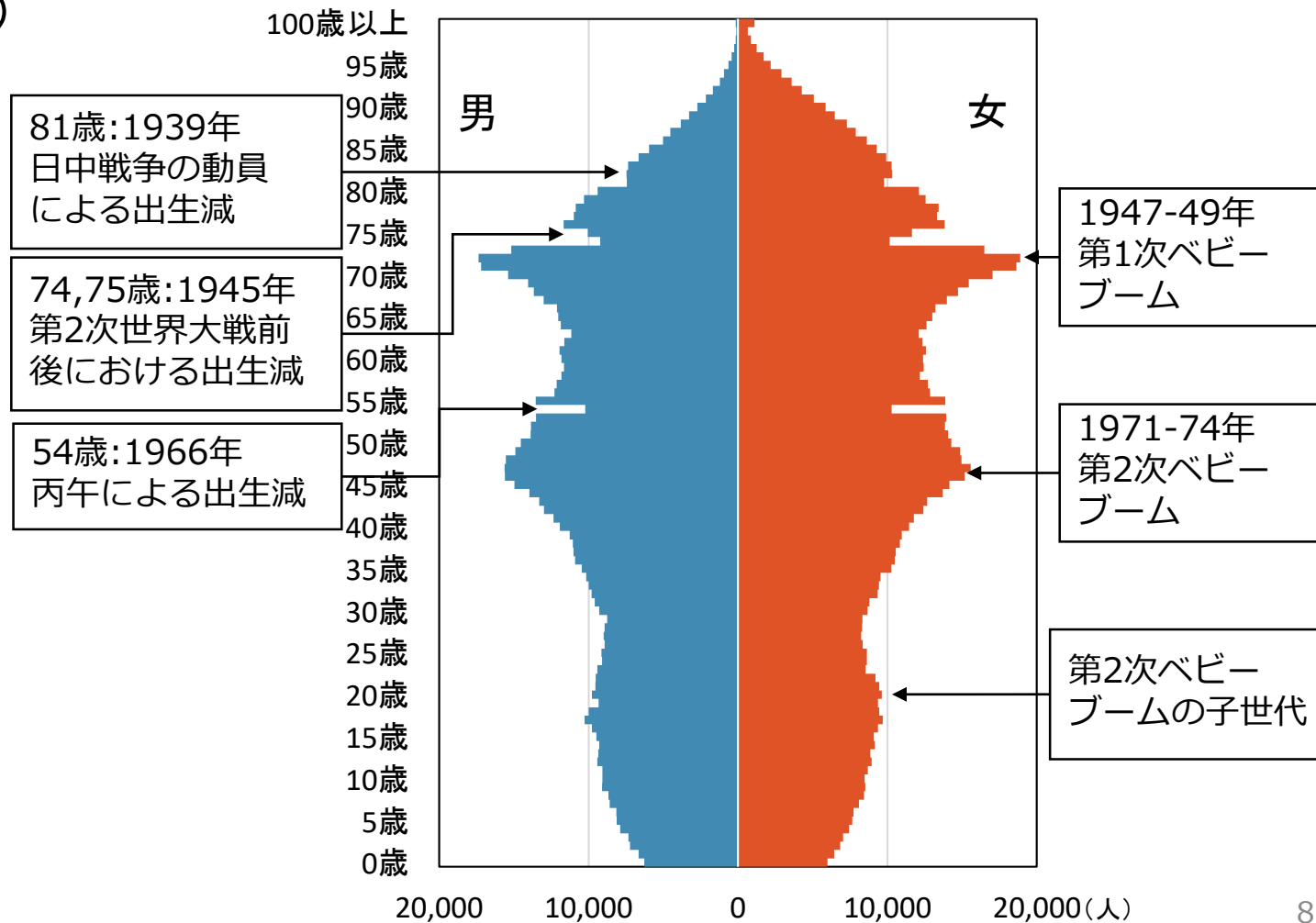
○総数

	総人口	日本人	外国人
人口(人)	1,978,742	1,924,681	54,061
構成比(%)	100.0	97.3	2.7

○年齢3区分別

		総人口	日本人	外国人
人口(人)	0-14歳	242,504	236,823	5,681
	15-64歳	1,133,872	1,087,922	45,950
	65歳以上	602,366	599,936	2,430
構成比(%)	0-14歳	12.3	12.3	10.5
	15-64歳	57.3	56.5	85.0
	65歳以上	30.4	31.2	4.5

男女別各歳別人口(総人口)



前回の推計方法を踏襲し、推計する

【日本人の推計方法】

出生、死亡といった過去のデータがある日本人は、出生、死亡、社会移動毎に仮定値を設定し、将来の人口を推計する。（コーホート要因法）

※コーホート要因法：出生、死亡、転入転出等の人口変動要因に条件を設定し、コーホート（出生年が同じ集団（世代））ごとに将来人口を推計する方法。（国立社会保障・人口問題研究所も同じ方法で推計を実施）

$$\begin{array}{c} \text{人口方程式} \\ \text{基準人口} + \left[\begin{array}{c} \text{自然動態} \\ \text{出生} - \text{死亡} \end{array} \right] + \left[\begin{array}{c} \text{社会動態} \\ \text{転入} - \text{転出} \end{array} \right] = \text{将来人口} \end{array}$$

【外国人の推計方法】

出生、死亡といったデータがなく、経済情勢等の影響を受けやすい外国人は、これまでの人口動向に、数学的関数をあてはめて将来人口を推計する。（関数あてはめ法）

今回の推計の前提条件まとめ

		前提条件	使用した統計
日本人	出生 (出生率)	<p>コーホート（世代）ごとの年齢別出生率を予測してから、それをピリオド（期間）の合計特殊出生率に変換した 2020年 1.419 → 2050年 1.417</p> <p>なお、出生性比は直近10年（2011～2020年）平均で固定 104.7（女性=100）</p>	厚生労働省「人口動態統計」
	死亡 (平均寿命)	<p>平均寿命の長期延伸傾向を踏襲し延長推計 2015年 男性81.00年 女性86.82年 → 2050年 男性83.12年 女性89.75年</p>	厚生労働省「平成27年都道府県別生命表」 ※国勢調査を基に推計しているため、平成27年が最新
	社会移動 (社会移動率)	<p>直近10年（2011～2020年）の社会移動率※を平均し固定 ※社会移動率=1年間の転入転出差÷期首人口 全年齢平均 男性△0.23% 女性△0.31%</p>	岐阜県「岐阜県人口動態統計調査」
外国人	人口	<p>数学的関数（ロジスティック曲線）をあてはめて推計 2020年 54,061人 → 2050年 71,199人</p>	総務省「国勢調査」
	構成比	<p>性比は2020年国勢調査の結果を固定 年齢構成比は直近3回（2010,2015,2020年）の国勢調査の結果を平均し固定</p>	総務省「国勢調査」

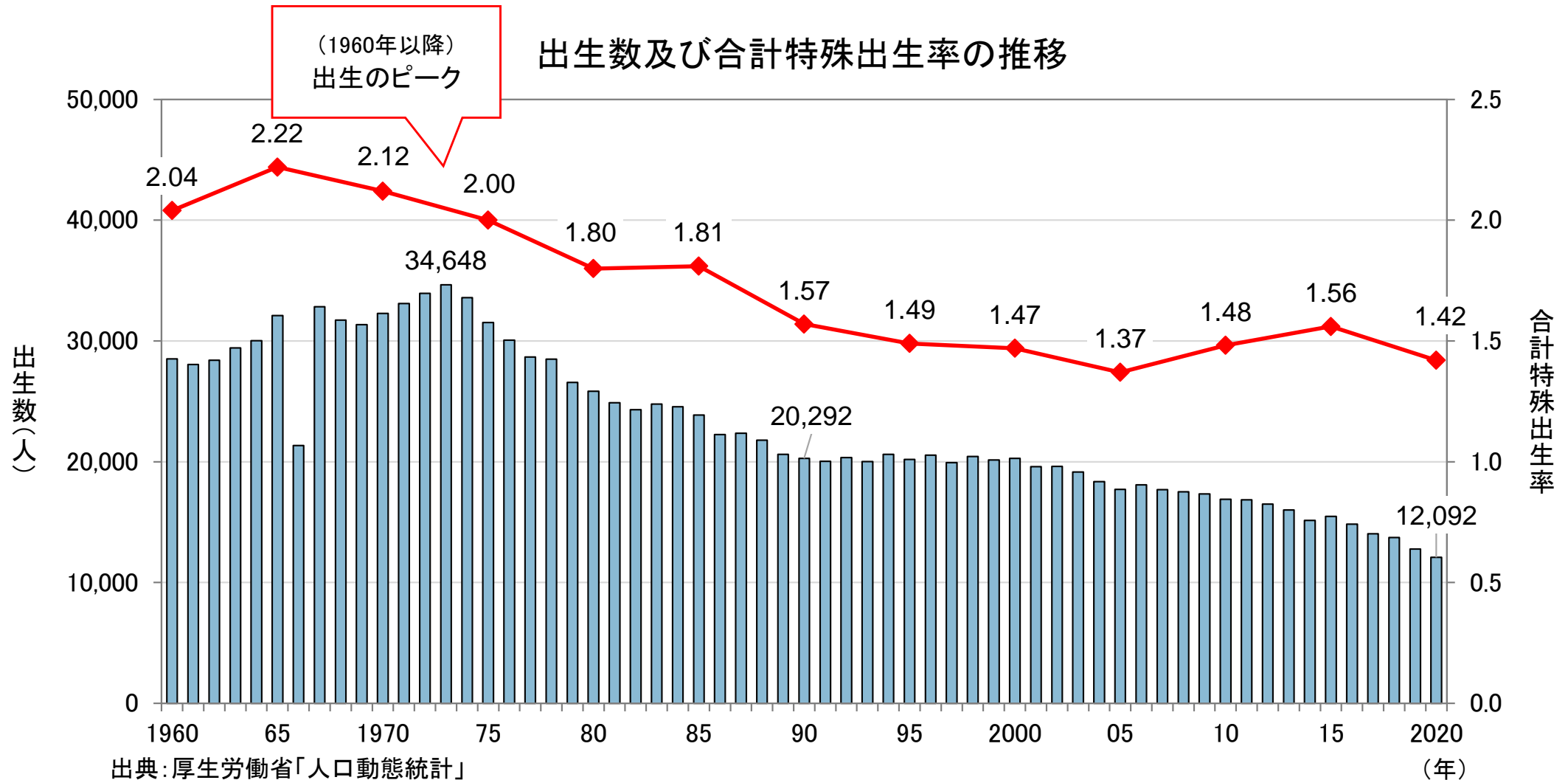
2 将来人口推計の前提条件

(1) 出生率の設定

■出生率のトレンド確認

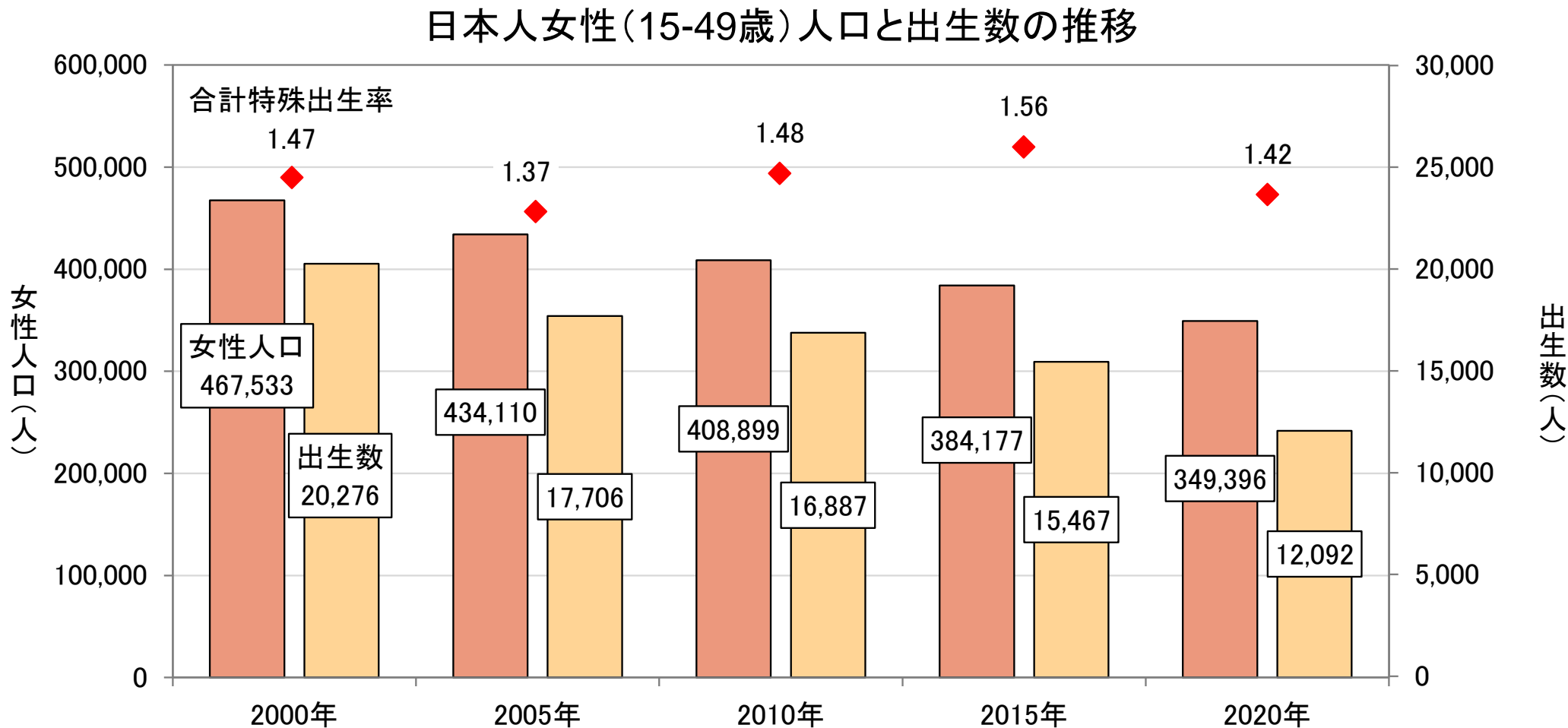
合計特殊出生率は2005年まで低下し、その後2015年まで上昇傾向にあったものの、2020年は再び低下に転じた

人口置換水準2.07は、国立社会保障・人口問題研究所「人口問題研究」による



■出生率のトレンド確認

女性人口が減少しているため、出生数は減少する
合計特殊出生率が上昇していた期間でも出生数は増加していない

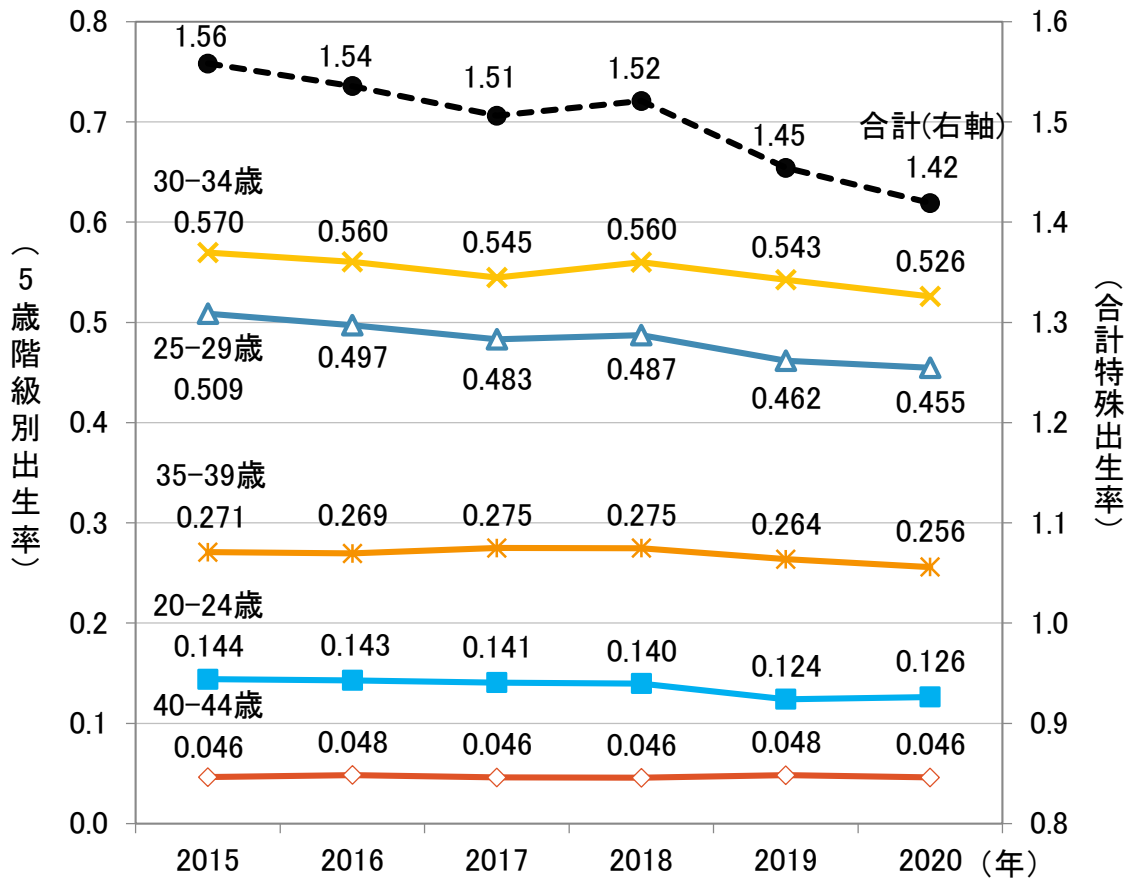


出典: 女性人口は総務省「国勢調査」、出生数は厚生労働省「人口動態統計」

■出生率のトレンド確認

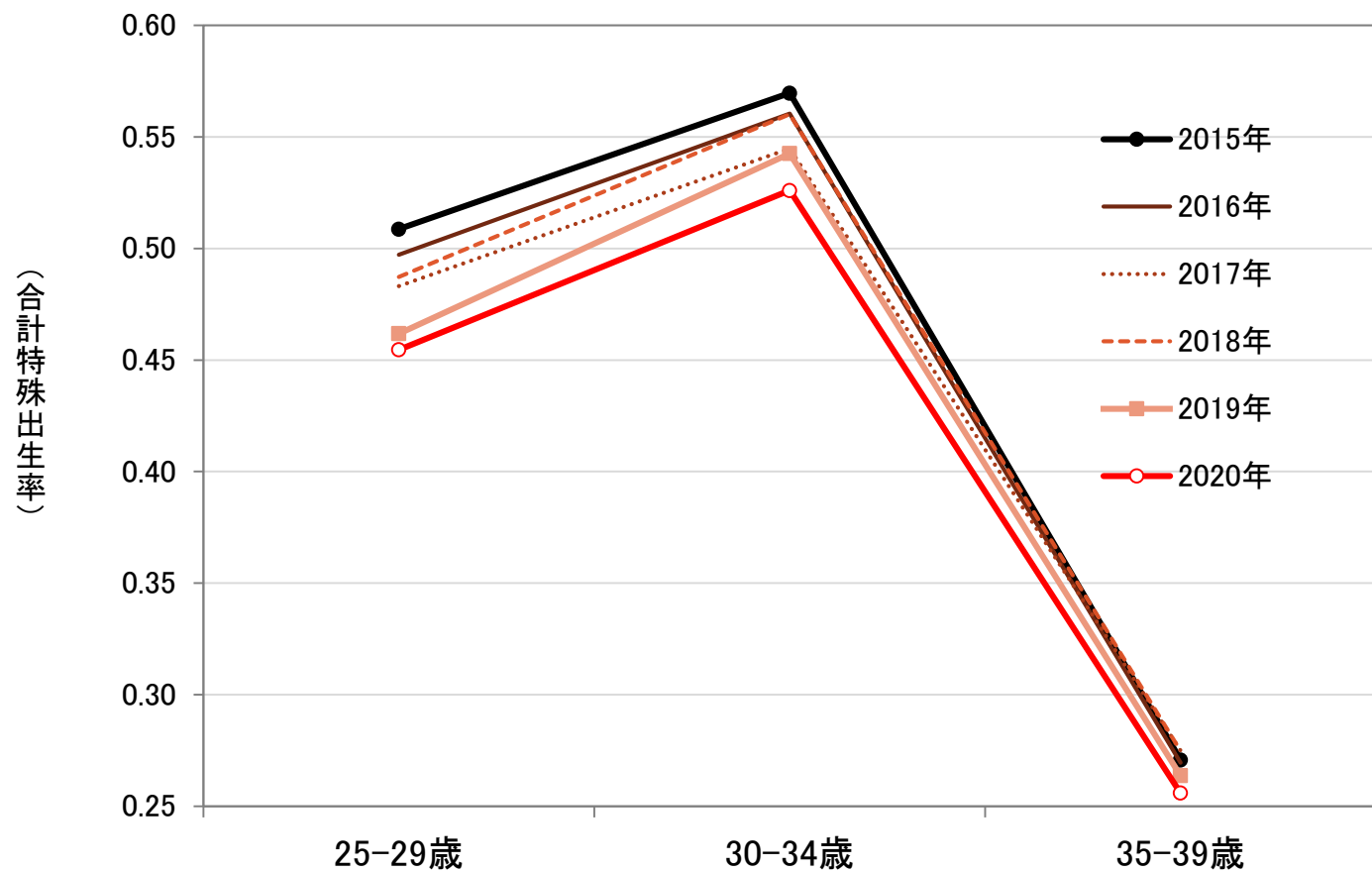
2015年から2020年間の低下は2019年が特に大きく、 出生の主力である30代前半と20代後半の低下が寄与している

5歳階級別出生率の推移



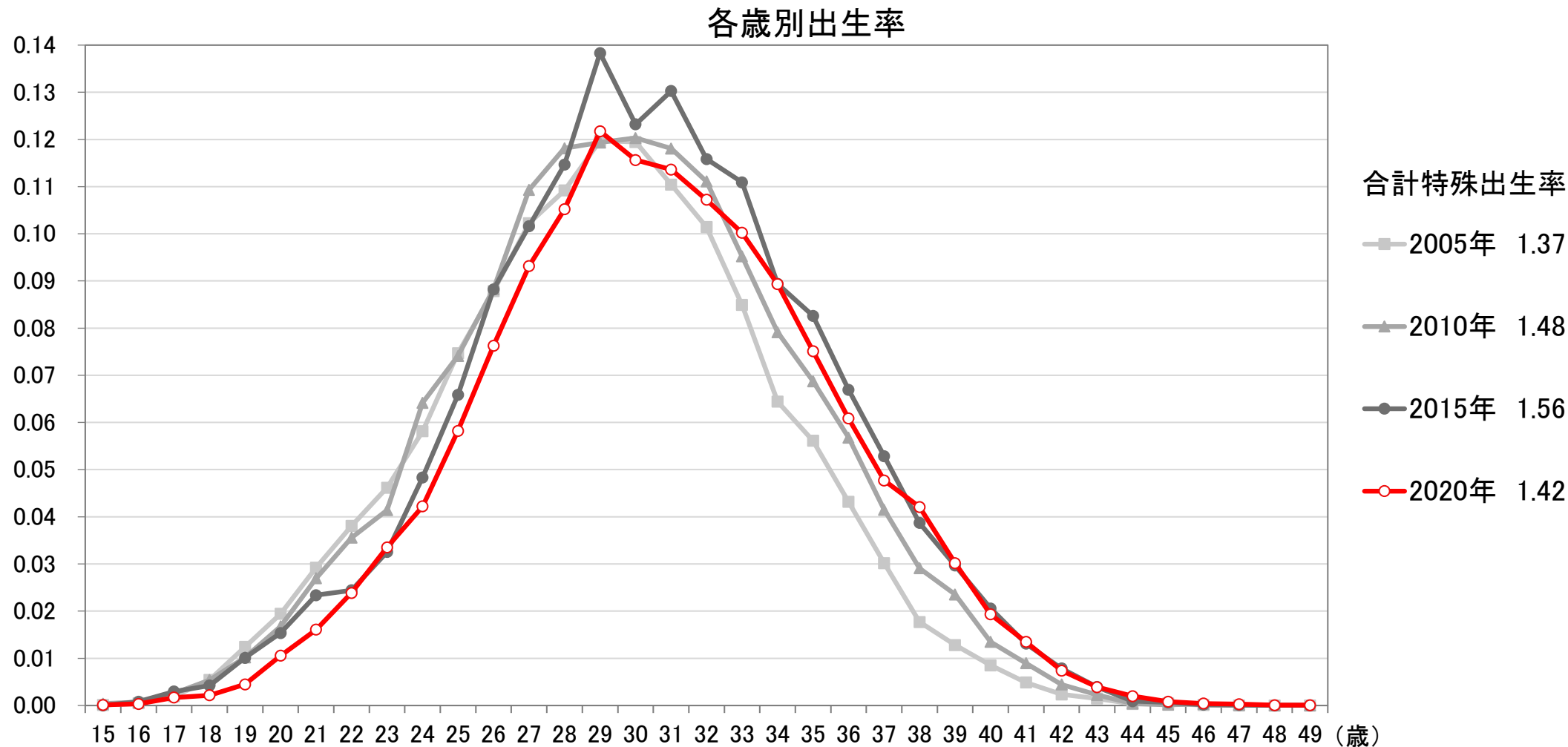
出典:厚生労働省「人口動態統計」

5歳階級別出生率の推移



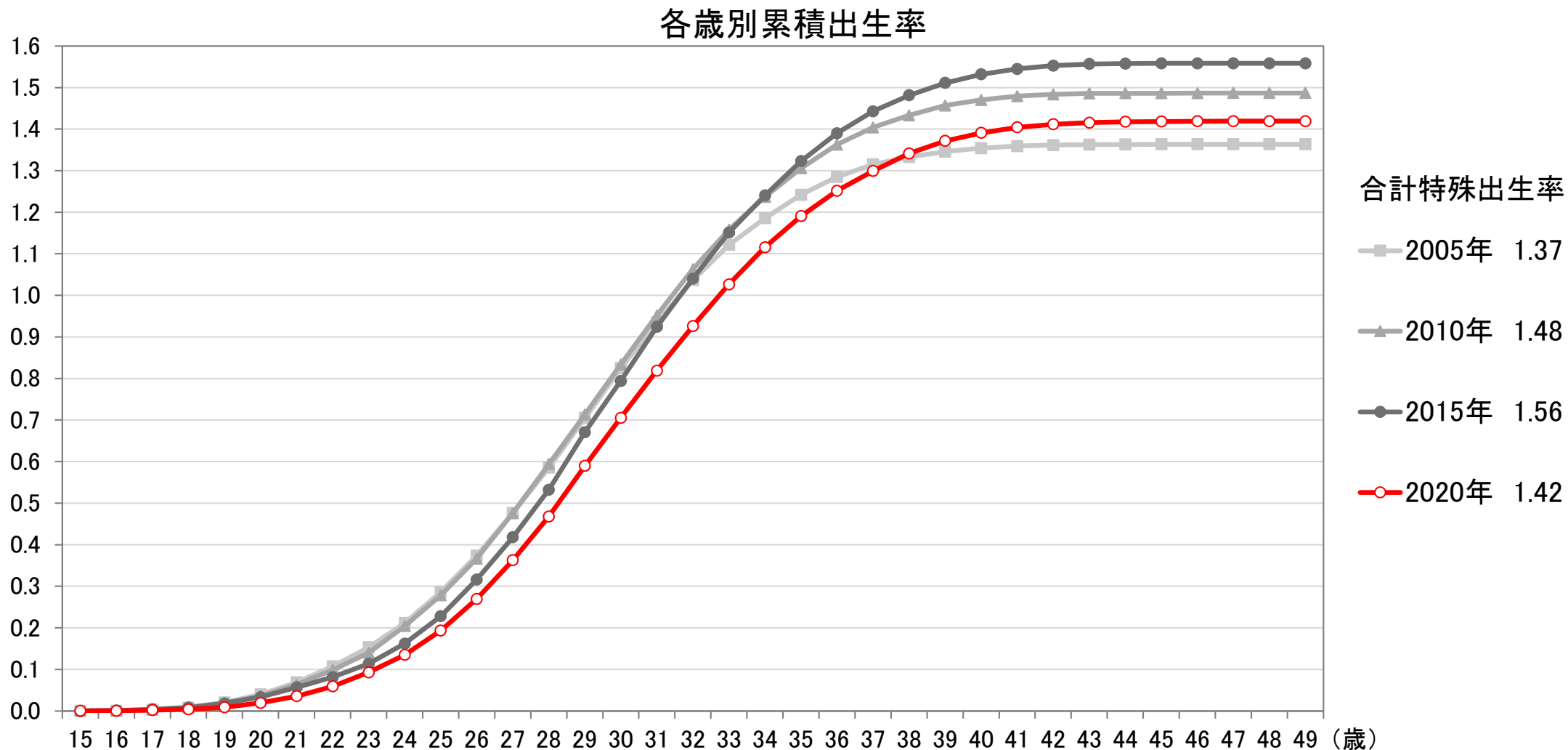
■出生率のトレンド確認

これまでは20代の出生率が低下し、30代が上昇する傾向だったが、2020年はそのトレンドがみられない



■出生率のトレンド確認

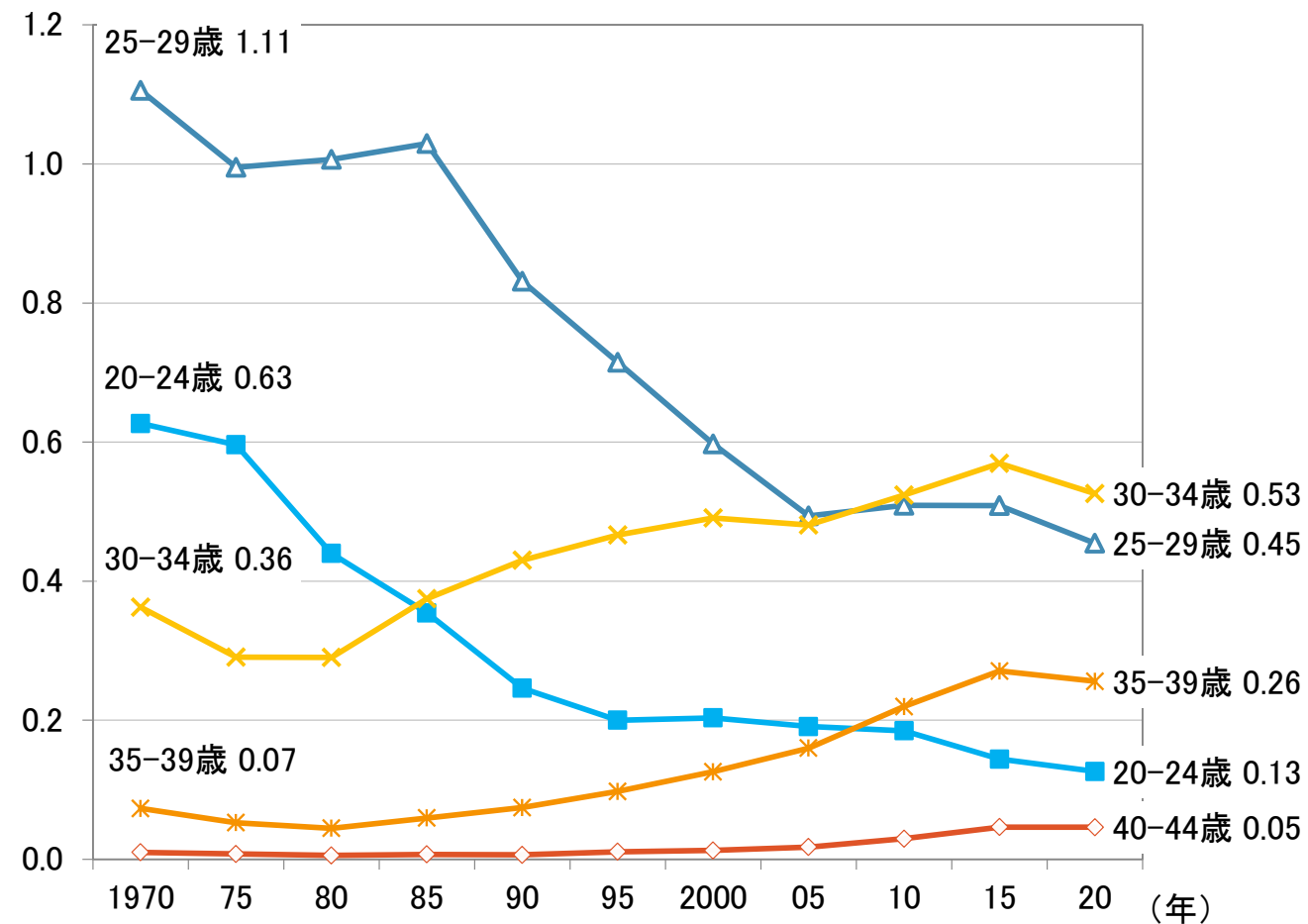
2015年と2020年の累積出生率を比較すると、どの年齢層も低下しており、30代の出生率上昇による追いつきがみられない



■ 出生率のトレンド確認

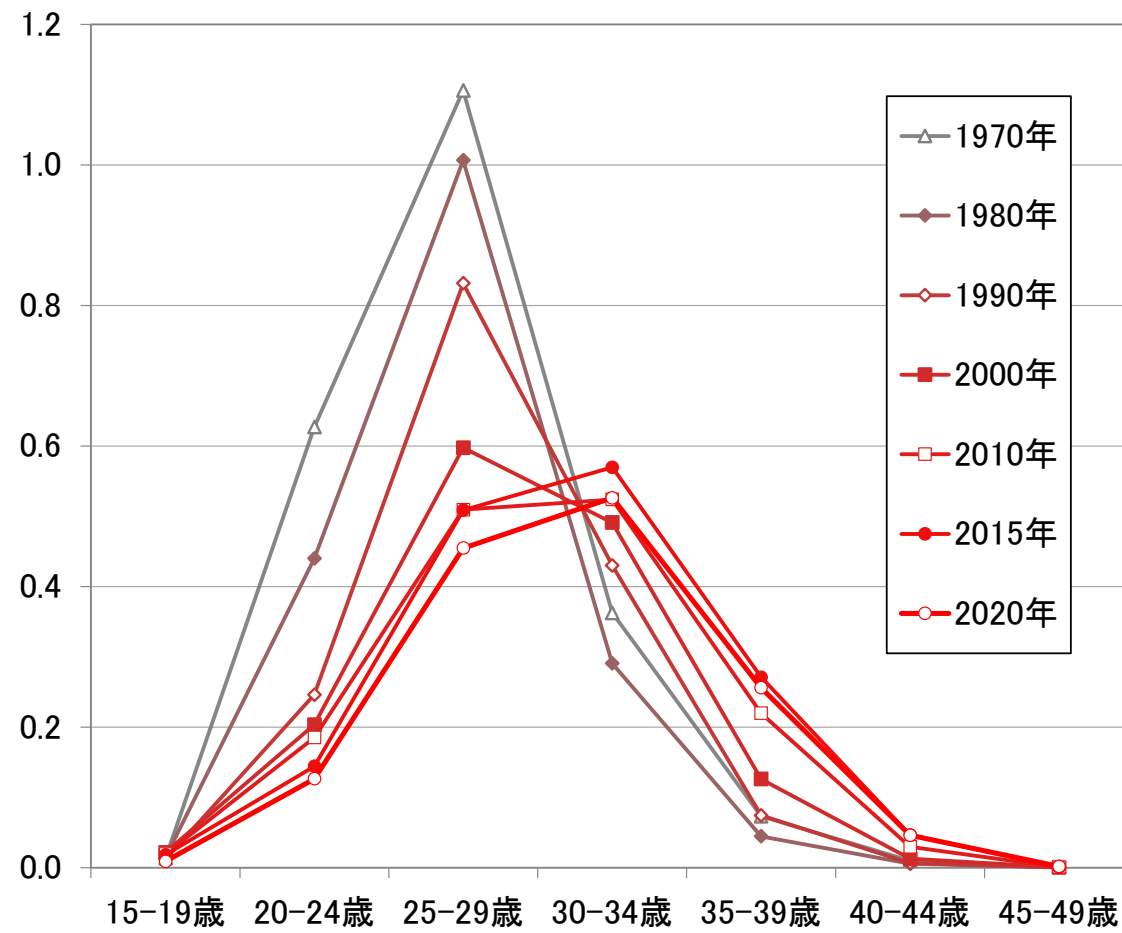
これまでは30代の出生率の上昇がトレンドだったものの、
2020年は低下に転じた

5歳階級別出生率の推移



出典：厚生労働省「人口動態統計」

5歳階級別出生率



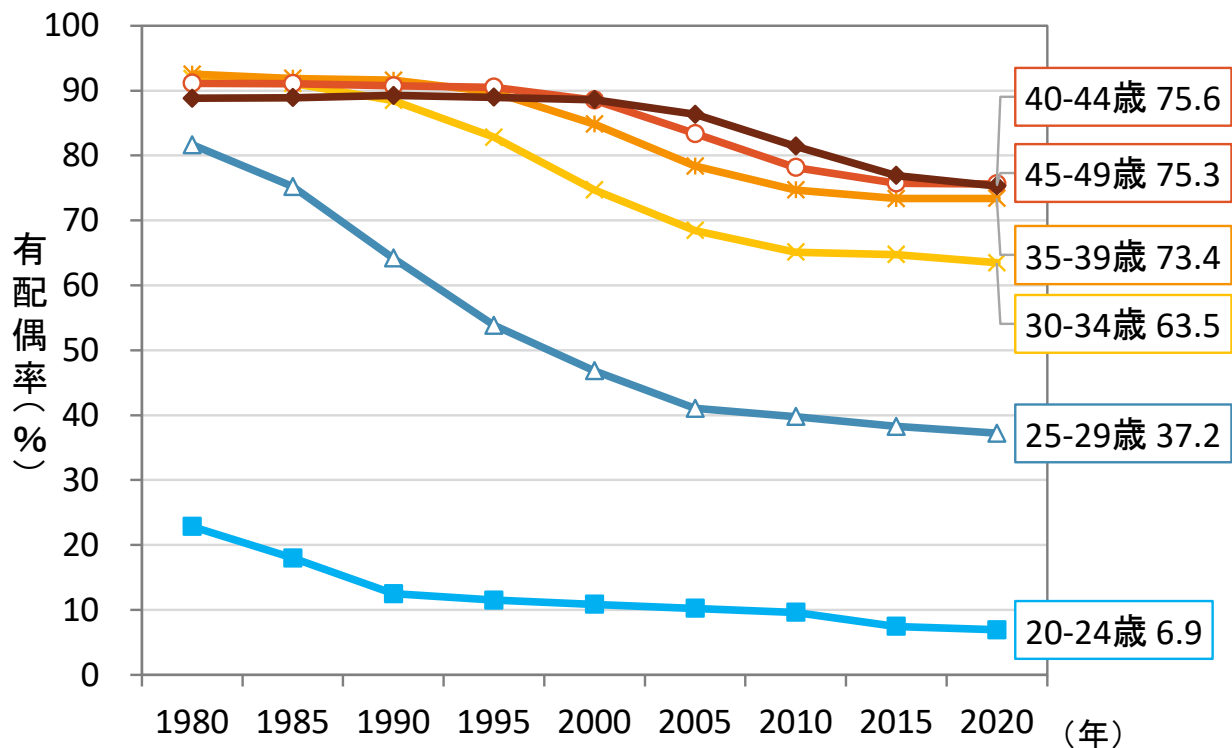
出典：厚生労働省「人口動態統計」

■出生率のトレンド確認

日本の場合、98%※が嫡出子（夫婦から生まれた子ども）であるため、出生の低下には結婚している女性の減少が影響している

※ 嫡出子98%は、厚生労働省「人口動態統計」による

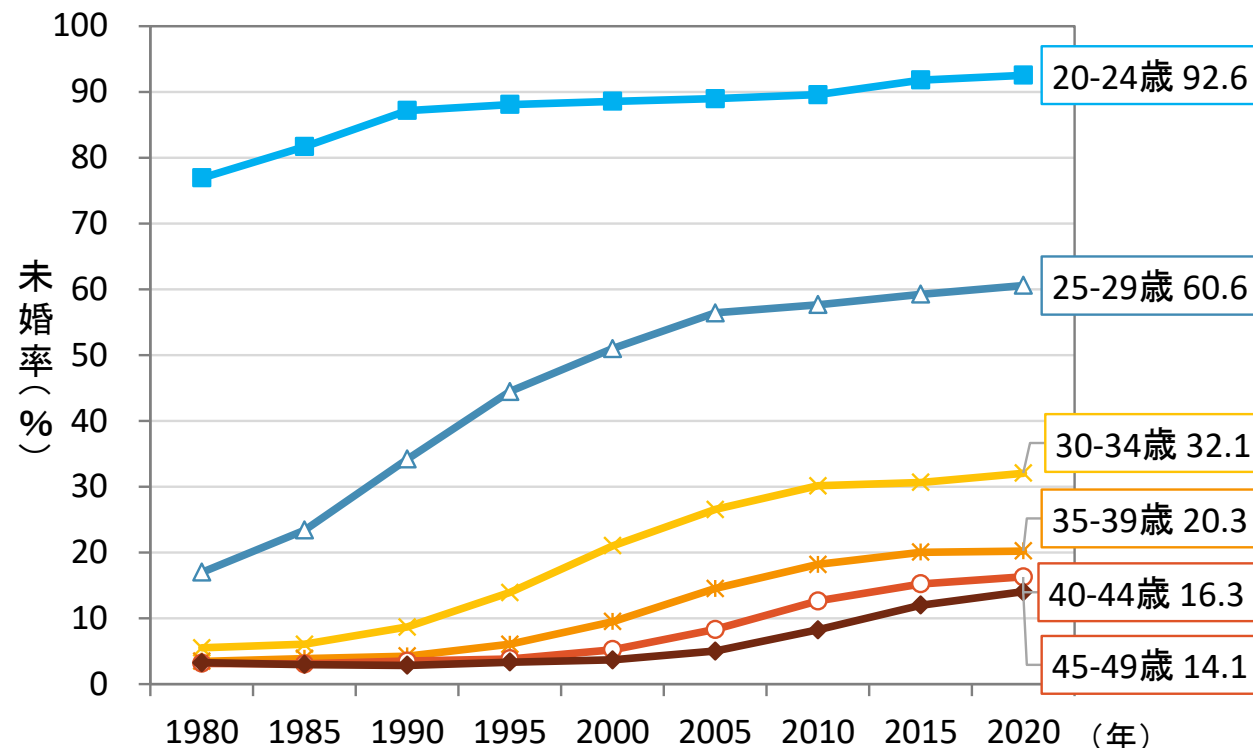
5歳階級別有配偶率の推移(日本人女性)



出典:総務省「国勢調査」

※総数から配偶関係不詳を除いた人口で率を算出している。

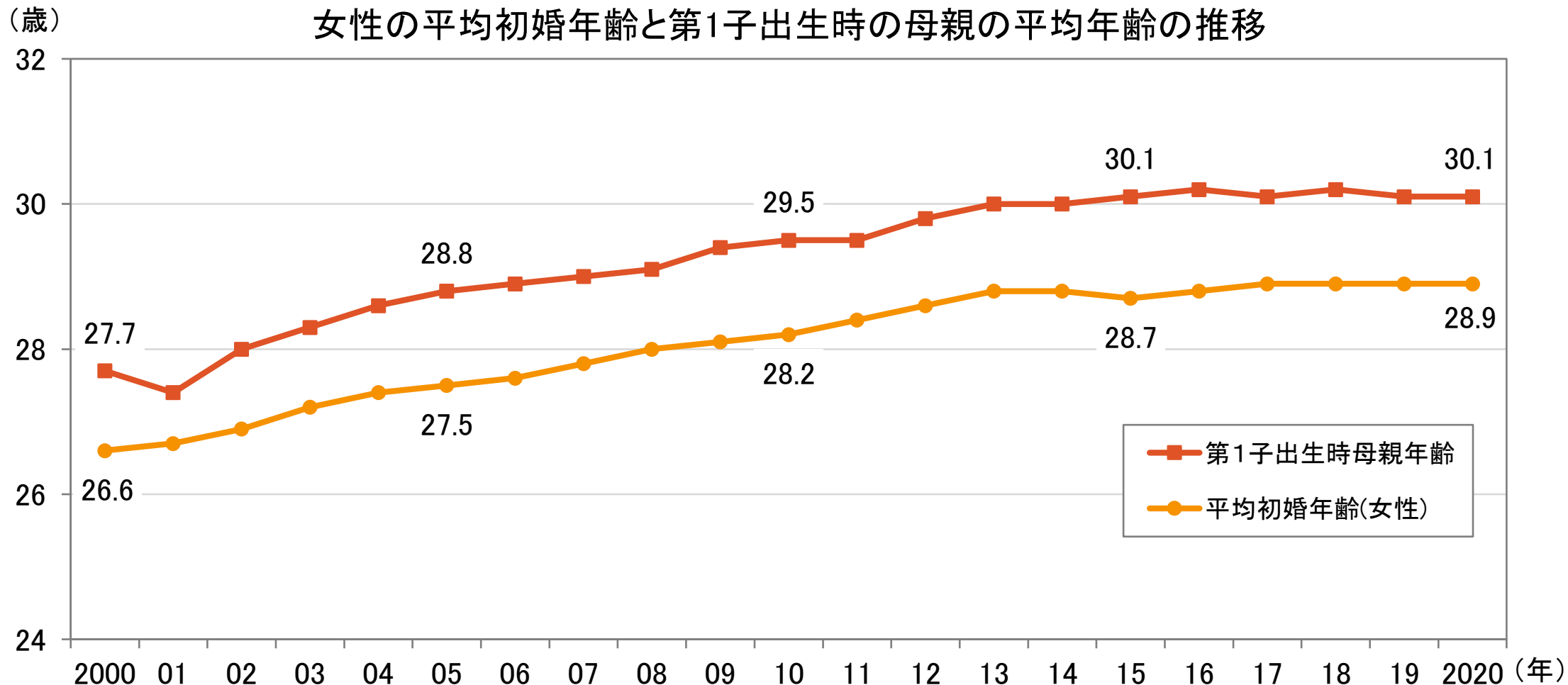
5歳階級別未婚率の推移(日本人女性)



出典:総務省「国勢調査」

※総数から配偶関係不詳を除いた人口で率を算出している。

平均初婚年齢及び第1子出生時の母親の平均年齢は、近年は横ばいに推移している



出典:厚生労働省「人口動態統計」

【将来の出生率の設定方法】

コホート（世代）ごとの年齢別出生率を予測してから、それをピリオド（期間）の合計特殊出生率に変換する

<コホート（世代）>

- ・ある特定期間（ここでは1年）に出生した人口。
- ・例えば、2020年に20歳である世代は2000年生まれであり、「2000年コホート」となる。

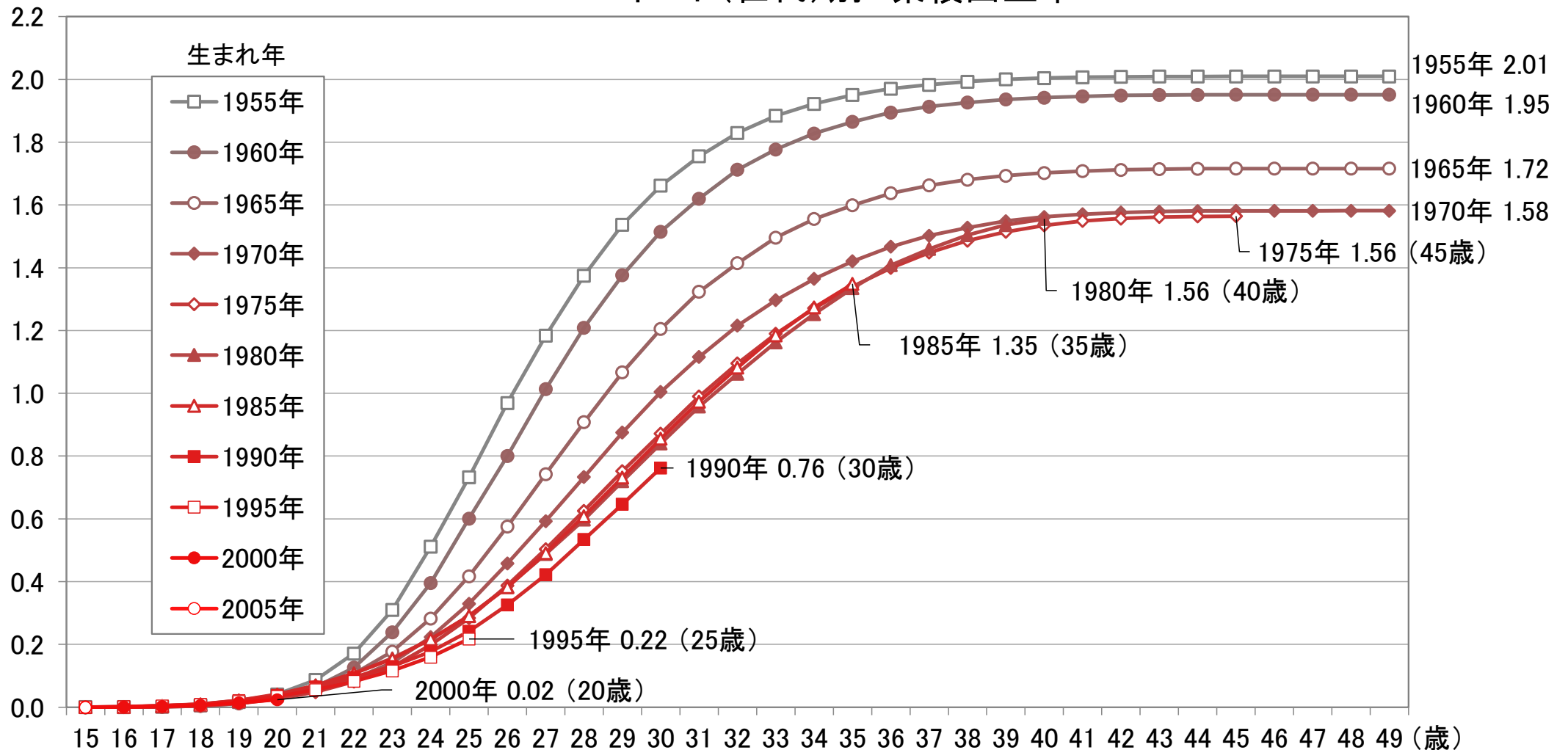
<ピリオド（期間）>

- ・ある期間（ここでは1年）のこと。
- ・今回の出生率の推計では、1年は1月1日～12月31日の期間を示す。

■出生率の設定

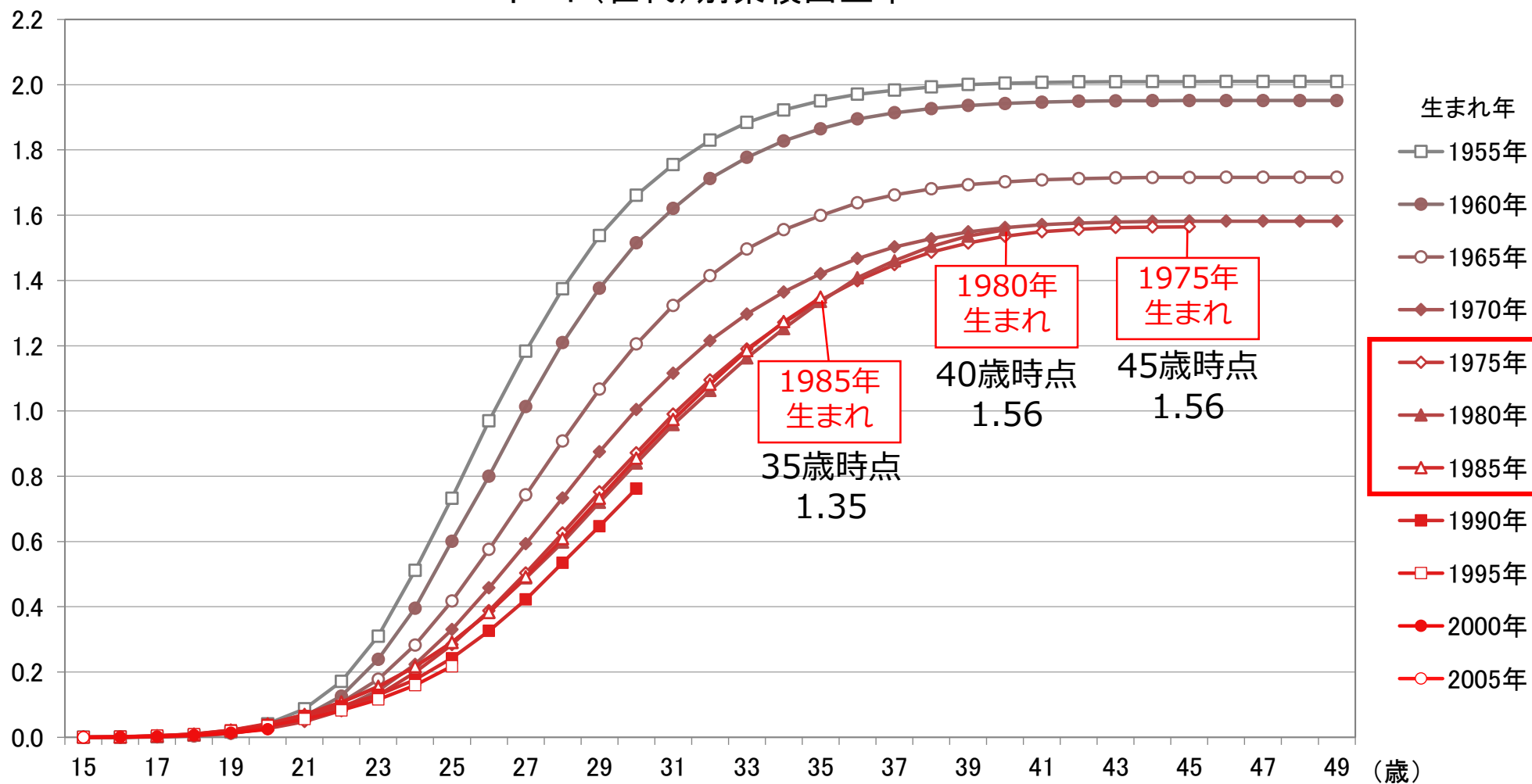
これまでのトレンドを踏まえ、「ある程度実績のあるコーホート」と「実績の少ないコーホート」の2つに分けて推計をする

コーホート(世代)別 累積出生率



推計① ある程度実績のある世代の推計 1975, 1980, 1985年生まれ

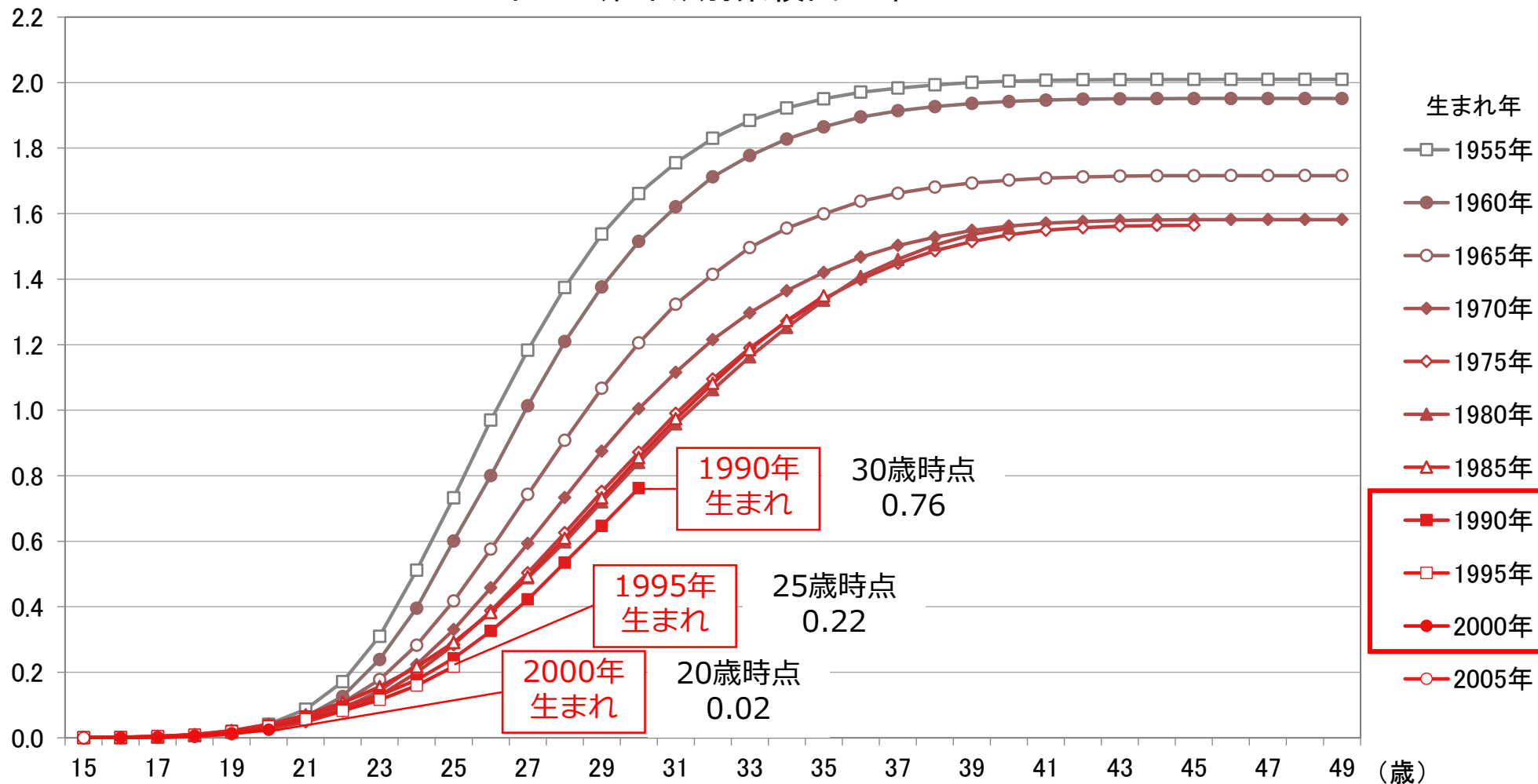
コーホート(世代)別累積出生率



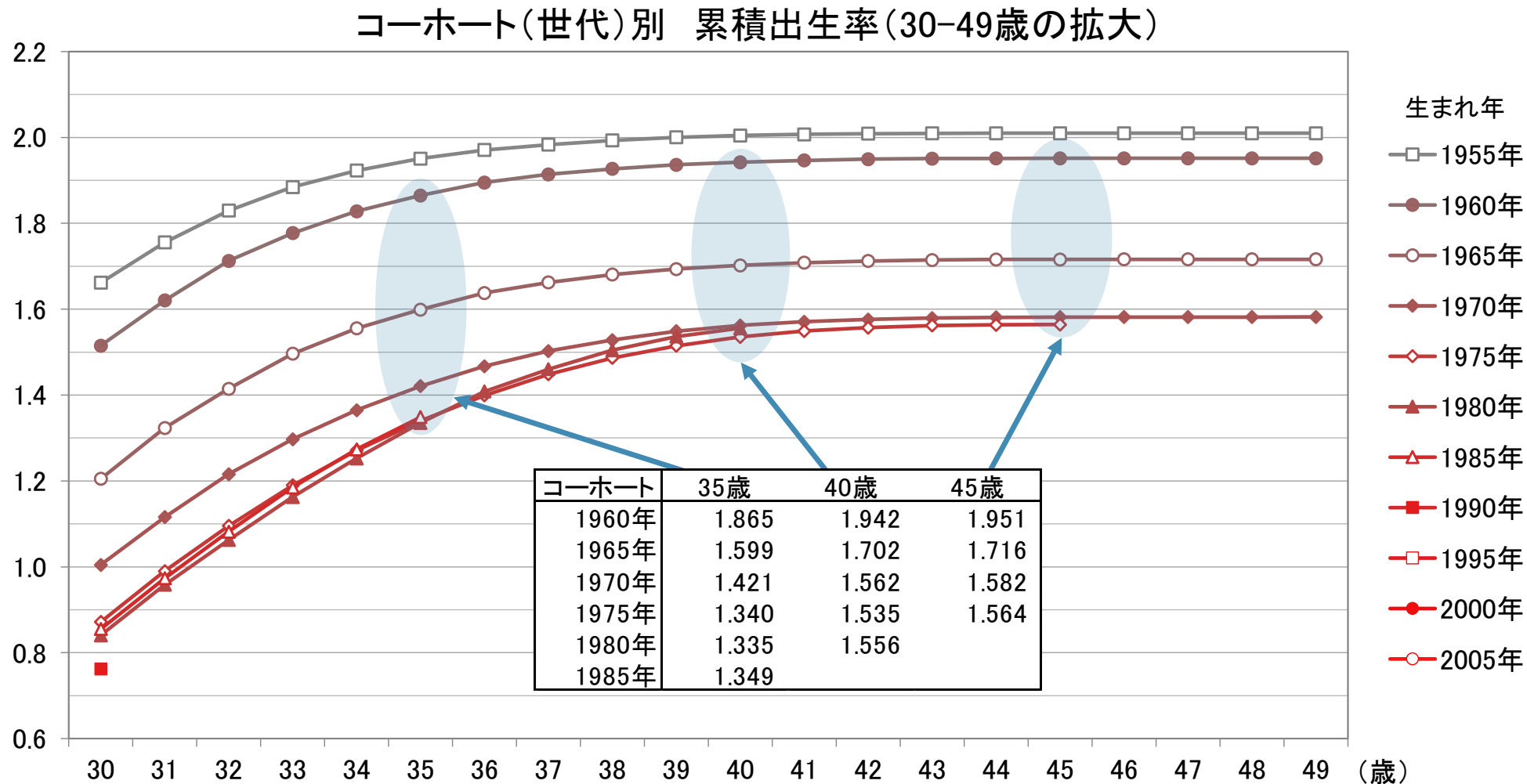
推計①

推計② 実績の少ない世代の推計 1990, 1995, 2000年生まれ

コホート(世代)別累積出生率



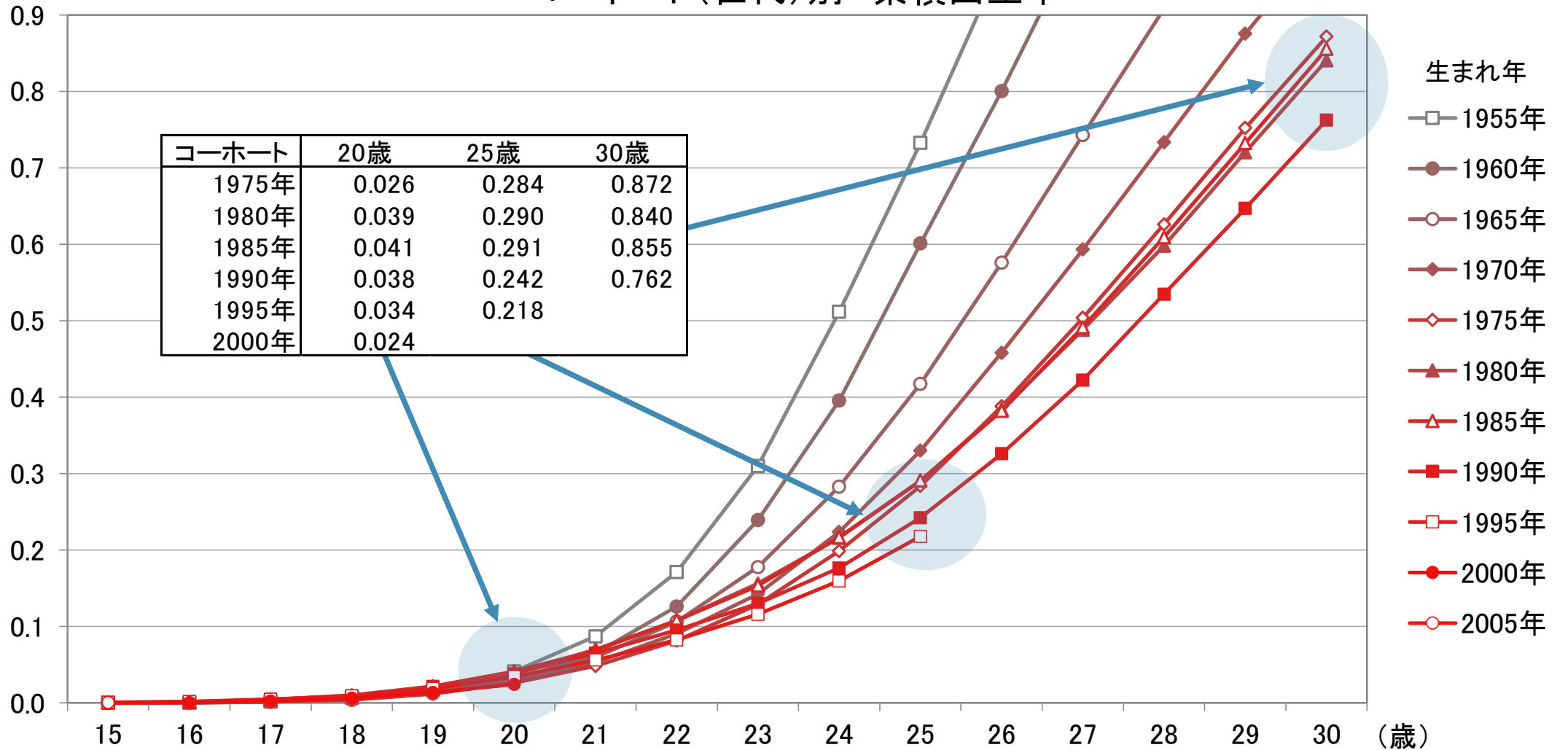
1975,80,85年生まれの累積出生率は、ほぼ同じ水準



■出生率の設定

30歳時点で1975,80,85年生まれは同水準だが、それ以降の世代は低下傾向にある

コーホート(世代)別 累積出生率



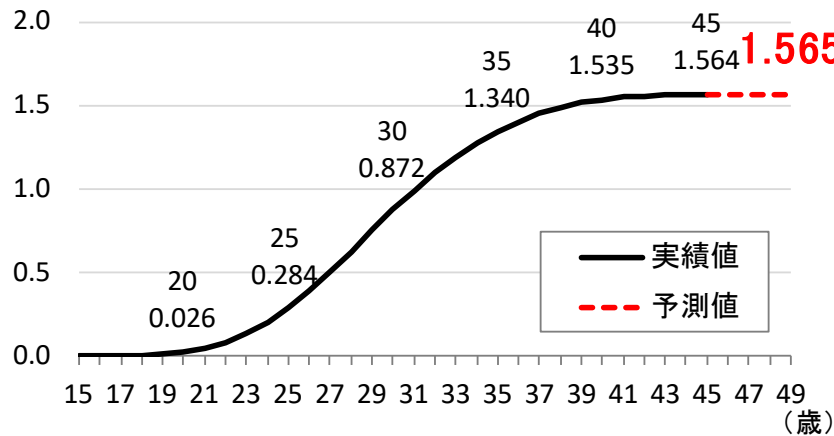
推計①1975,1980,1985年生まれの推計

累積出生率を、過去のコーホートの形状と同じS字型の曲線（ロジスティック曲線※）を近似させて推定した。

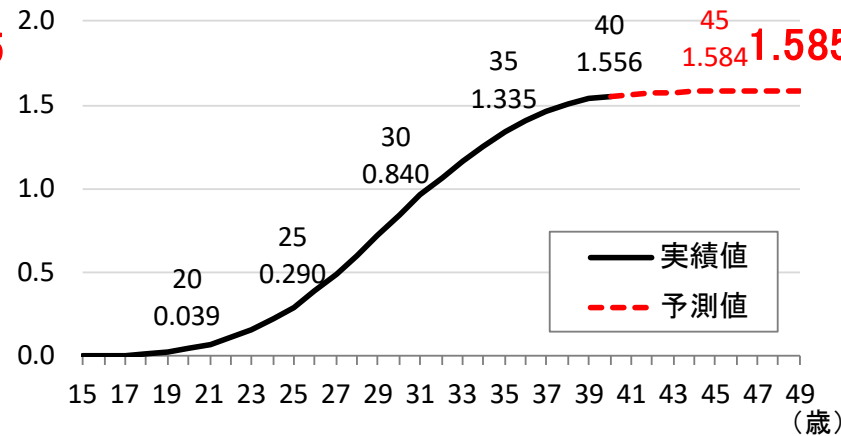
※ ロジスティック曲線の式 $y = \frac{a}{1+e^{b-cx}}$

- 1975年生まれ 46-49歳の出生率は極めて小さいため、45歳の実績値からほぼ変わらない。
- 1980年生まれ 1975年生まれとほぼ同じ水準で推移しているものの、40歳時点で1975年を上回っているため、完結出生力（49歳時点の累積値）も上回る。
- 1985年生まれ 1975,80年生まれとほぼ同じ水準で推移しているため、完結出生力も同程度になる。

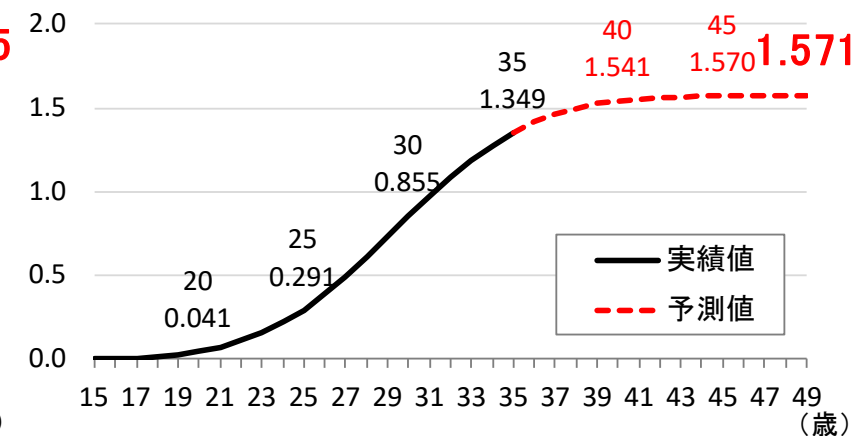
1975年 コーホート累積出生率
(2020年時点で45歳)



1980年 コーホート累積出生率
(2020年時点で40歳)

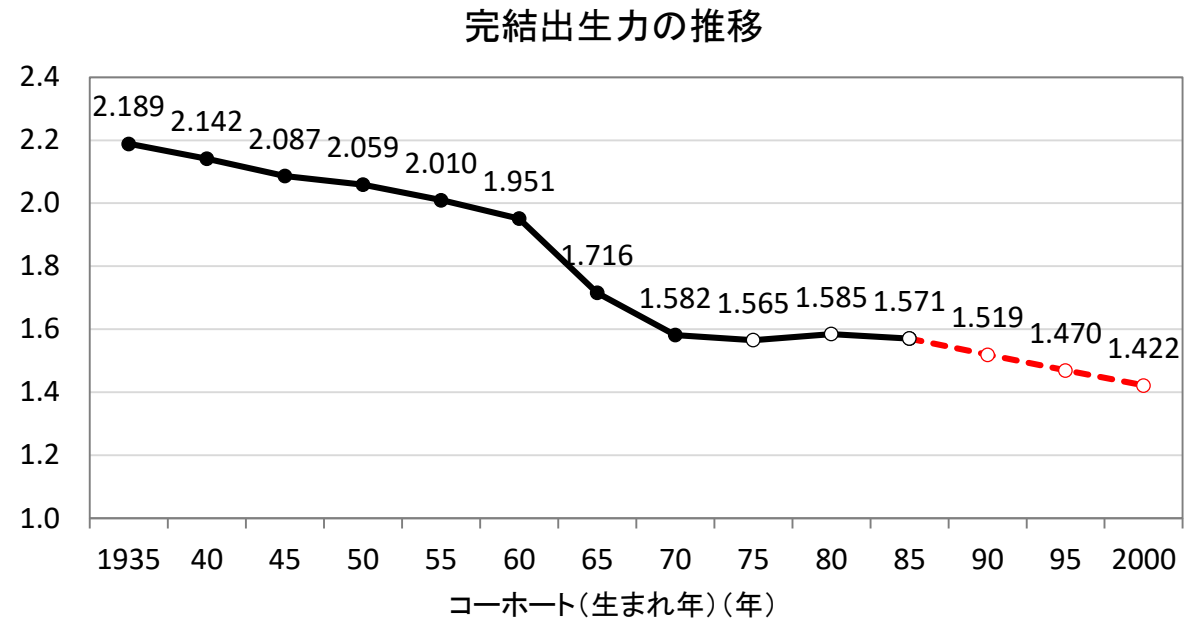


1985年 コーホート累積出生率
(2020年時点で35歳)



推計② 1990, 1995, 2000年生まれの推計

- まずは完結出生力（49歳時点における累積値）を算出するため、過去の実績値と推計①で予測した完結出生力の推移をゴンパーツ=メイカム曲線※により延長推計した。
※ ゴンパーツ=メイカム曲線の式 $y = ab^xc^{dx}$
- 1970～1985年生まれは横ばいに推移しているものの、長期的な完結出生力の低下を反映し、1990年生まれ以降は低下する予測となった。
- 1935～1960年生まれは5年ごとに△0.05程度で緩やかに低下しており、1990～2000年も同程度で低下していくとみられる。



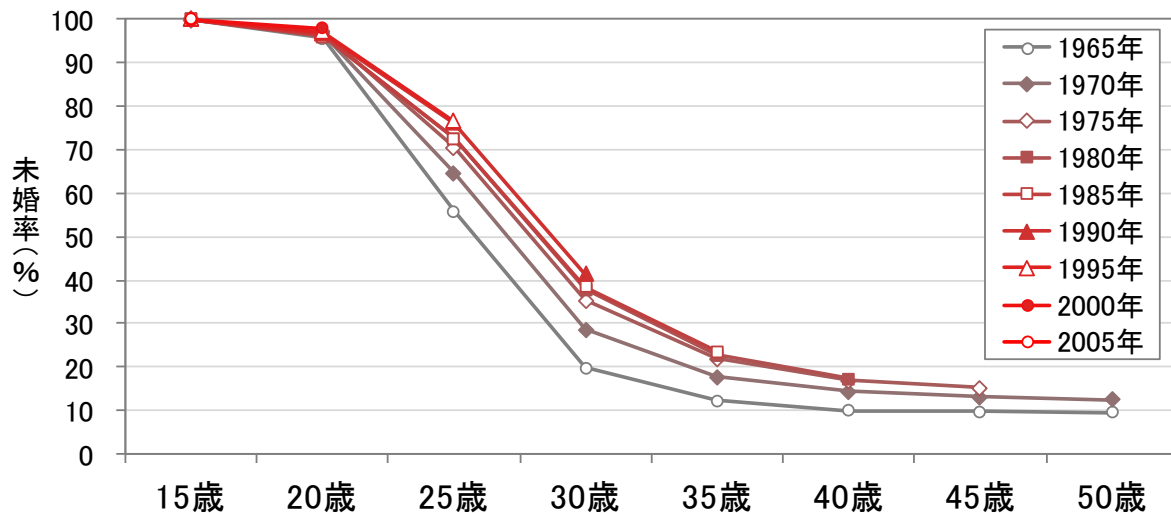
コホート (生まれ年)	実績値								推計①より			予測値		
	1935年	1940年	1945年	1950年	1955年	1960年	1965年	1970年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年
完結出生力	2.189	2.142	2.087	2.059	2.010	1.951	1.716	1.582	1.565	1.585	1.571	1.519	1.470	1.422
前年差	-	△ 0.047	△ 0.055	△ 0.028	△ 0.049	△ 0.058	△ 0.235	△ 0.134	△ 0.017	0.020	△ 0.014	△ 0.051	△ 0.050	△ 0.048

△0.05程度で緩やかに低下
大幅に低下
横ばいに推移

■出生率の設定

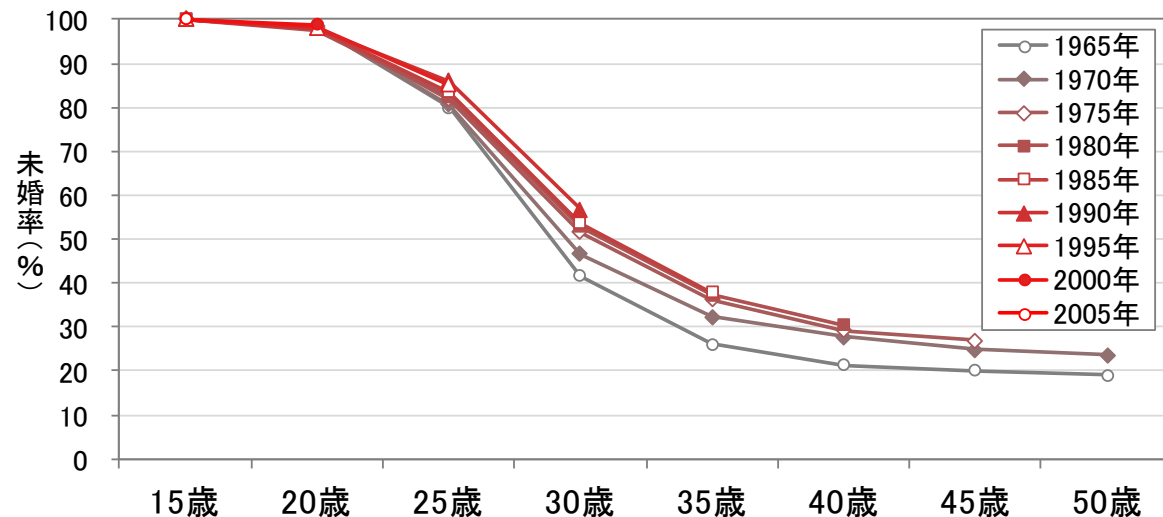
未婚率の上昇は男女とも止まっておらず、出生率上昇のきっかけとなる動きはみられない

日本人女性のコーホート別未婚率



	15歳	20歳	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳
1965年	100.0	95.6	55.8	19.9	12.3	10.1	9.8	9.5
1970年	100.0	96.7	64.7	28.5	17.7	14.4	13.2	12.5
1975年	100.0	97.1	70.5	35.3	22.0	16.9	15.1	
1980年	100.0	96.0	72.6	37.9	22.7	17.2		
1985年	100.0	96.1	72.5	38.4	23.5			
1990年	100.0	96.7	76.2	41.4				
1995年	100.0	97.1	76.5					
2000年	100.0	97.9						
2005年	100.0							

日本人男性のコーホート別未婚率



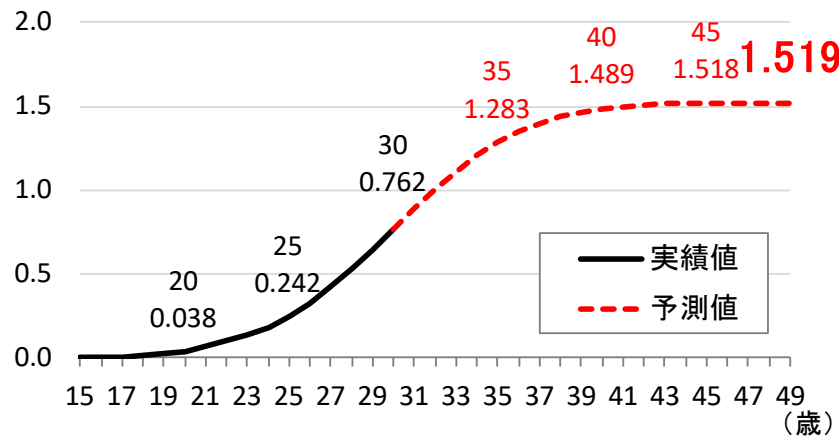
	15歳	20歳	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳
1965年	100.0	98.2	80.1	41.6	26.1	21.2	20.1	19.0
1970年	100.0	98.5	80.6	46.7	32.3	27.7	25.0	23.7
1975年	100.0	98.3	81.9	51.5	36.3	29.2	27.0	
1980年	100.0	97.6	82.5	52.8	37.4	30.5		
1985年	100.0	98.1	83.4	53.8	38.0			
1990年	100.0	97.9	86.0	56.7				
1995年	100.0	98.3	85.2					
2000年	100.0	98.8						
2005年	100.0							

出典：総務省「国勢調査」※総数から配偶関係不詳を除いた人口で未婚率を算出している。

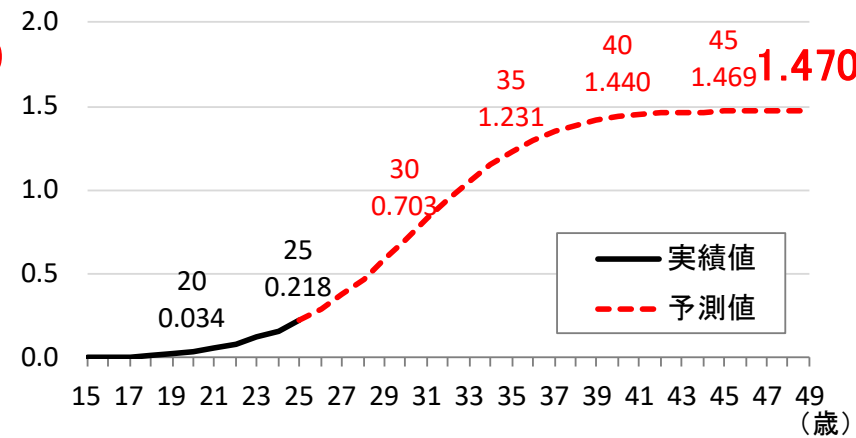
推計② 1990, 1995, 2000年生まれの推計

- 算出した目標値を用いてロジスティック曲線近似により未知部分の年齢別累積出生率を推定した。

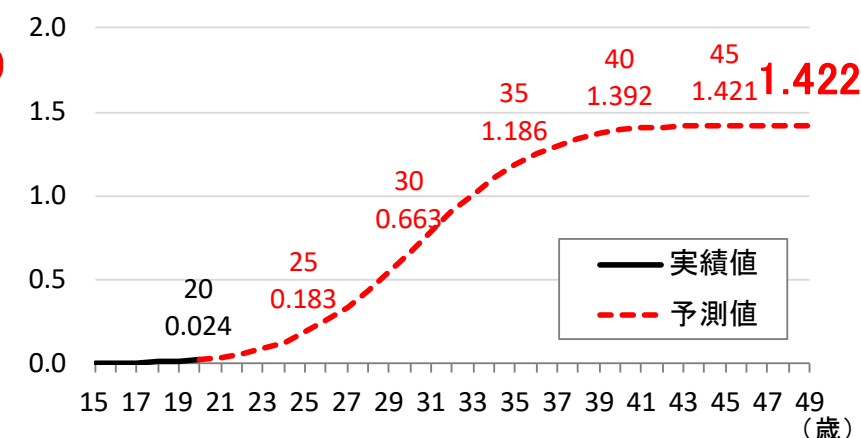
1990年 コーホート累積出生率
(2020年時点で30歳)



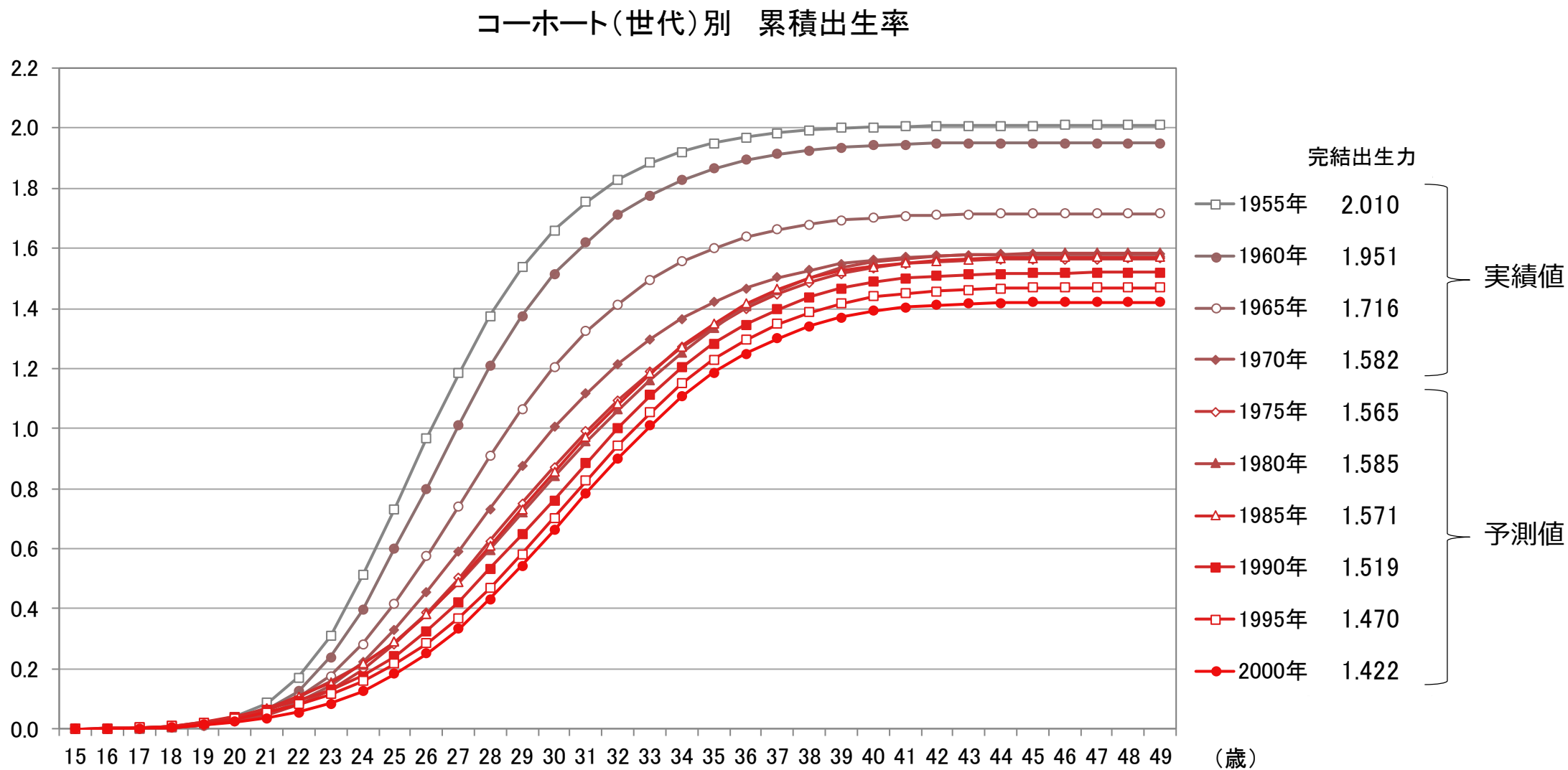
1995年 コーホート累積出生率
(2020年時点で25歳)



2000年 コーホート累積出生率
(2020年時点で20歳)



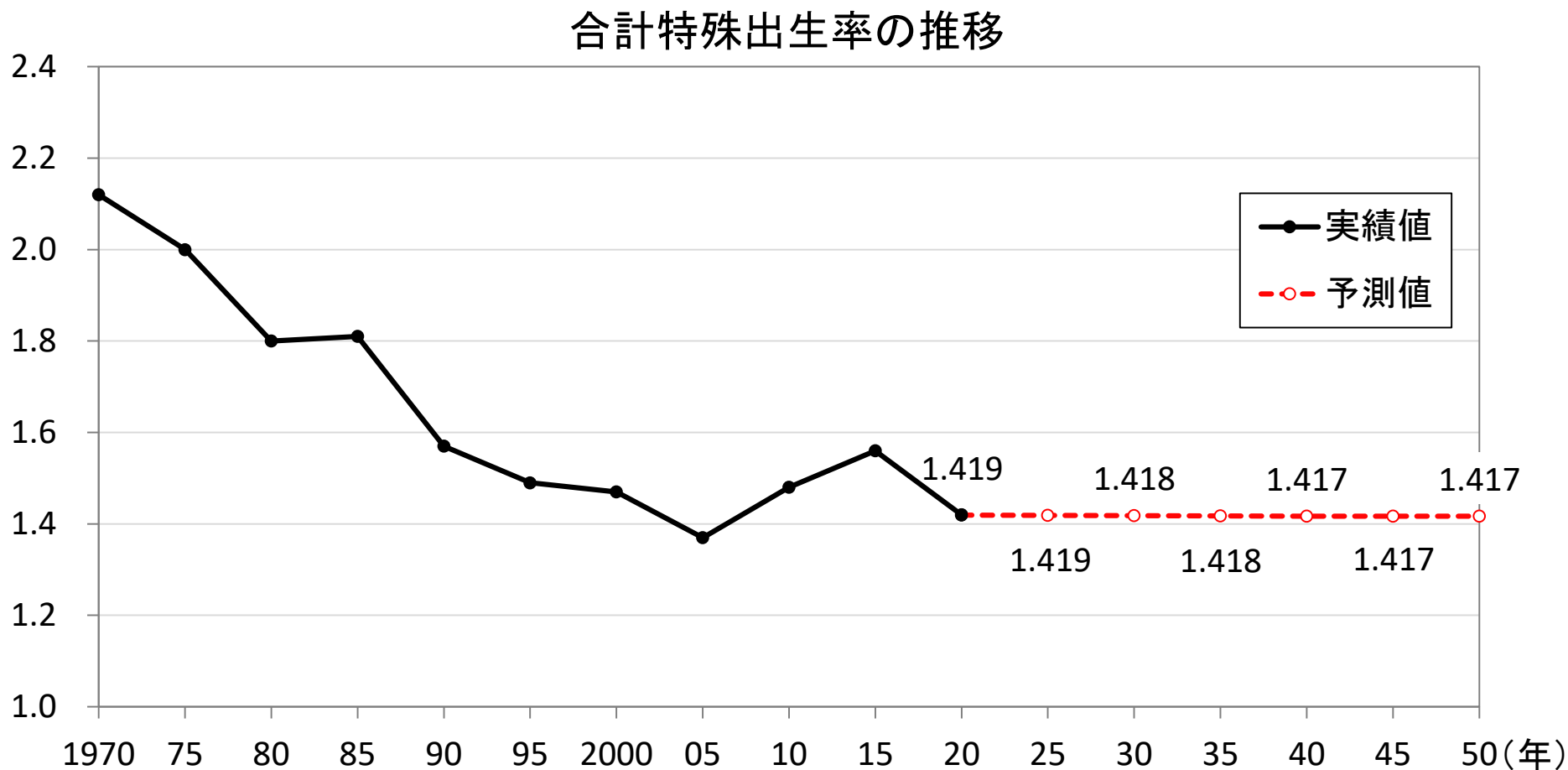
コホート別累積出生率の推計結果まとめ



■出生率の設定

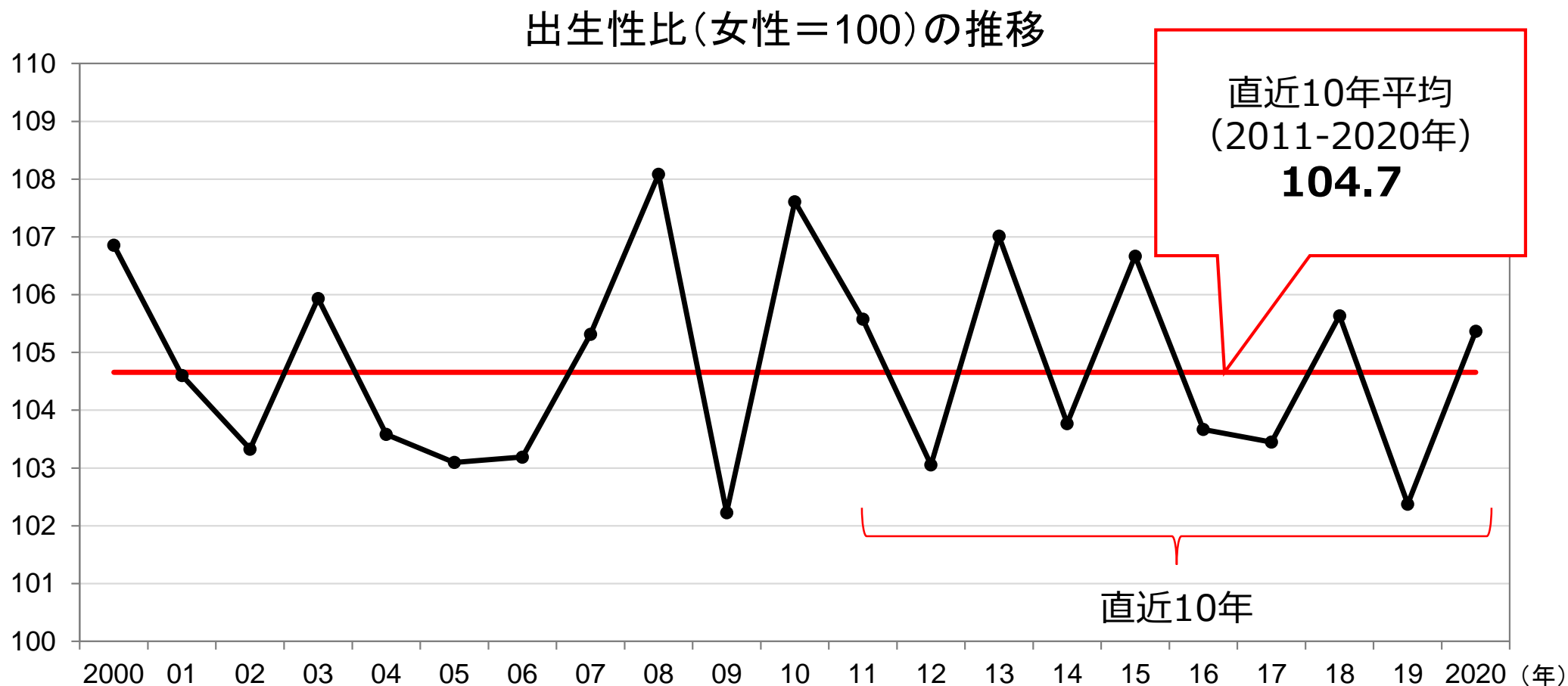
コーホート別の出生率を各年に並べ替えると、 30年後の合計特殊出生率は1.417

推計したコーホート別の出生率を各年の出生率に並び替えて将来人口推計に用いる。
その結果、将来の期間合計特殊出生率は以下ようになった。



出生性比は直近10年平均の104.7で固定

出生性比（生まれた子どもを男女に分ける割合）は2011-2020年の平均値で一定とした

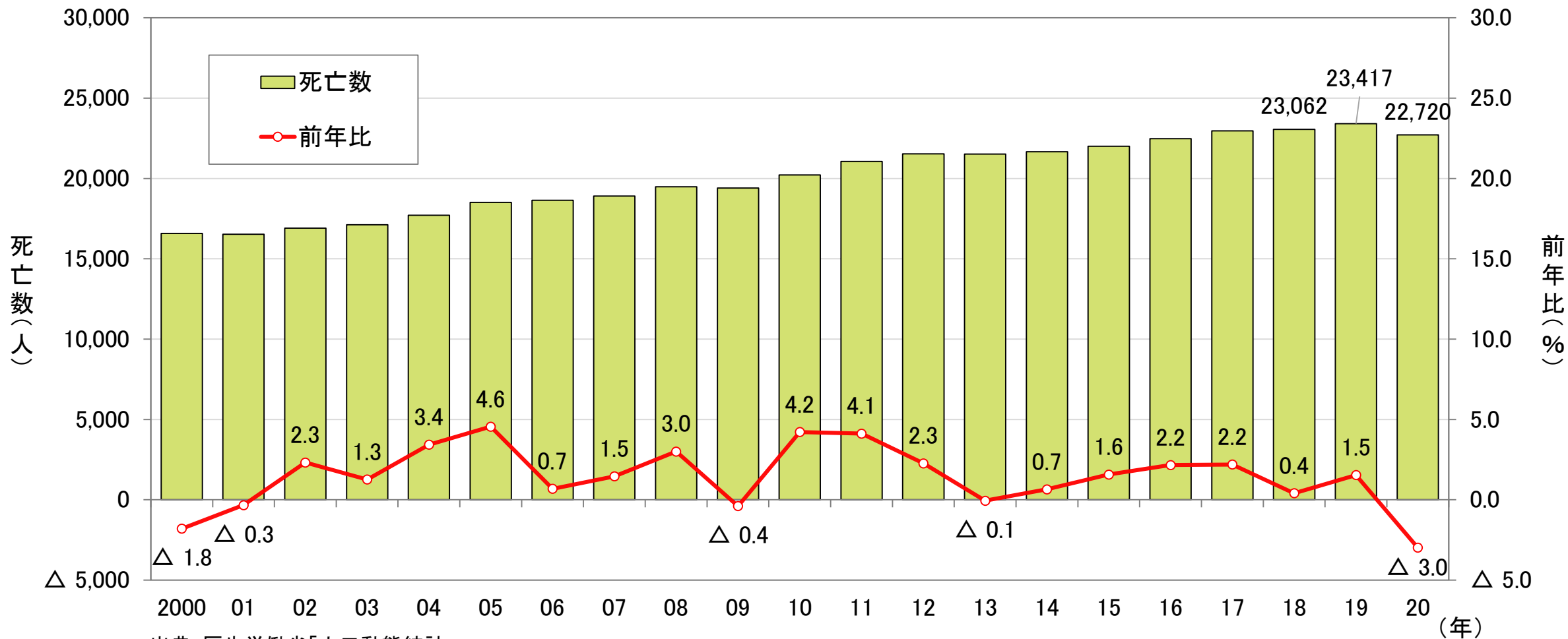


2 将来人口推計の前提条件 (2) 生残率の設定

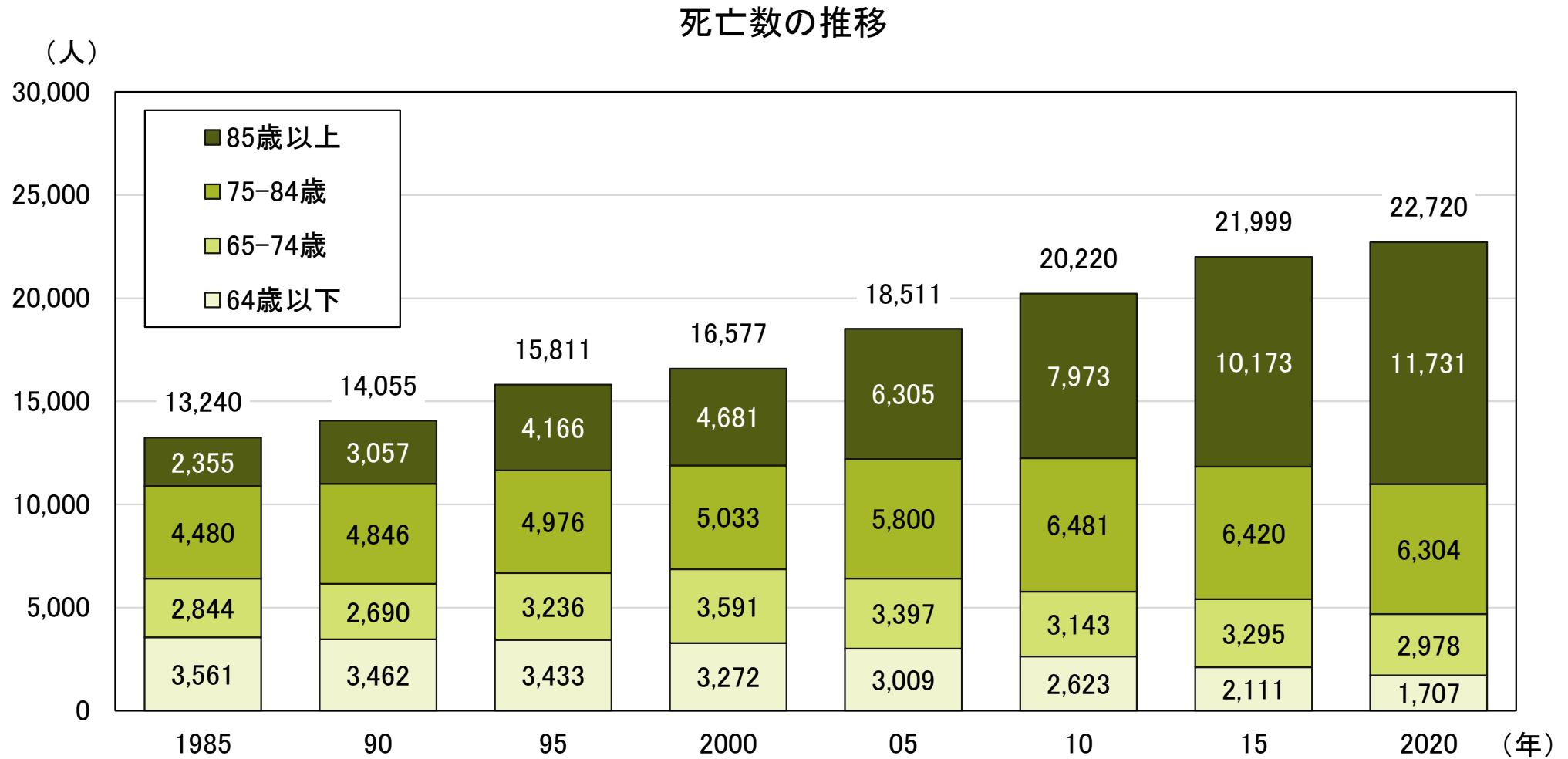
■死亡のトレンド確認

死亡数は増加傾向にあるものの、2020年は前年比 △3.0%（△697人）となった

死亡数と前年比の推移



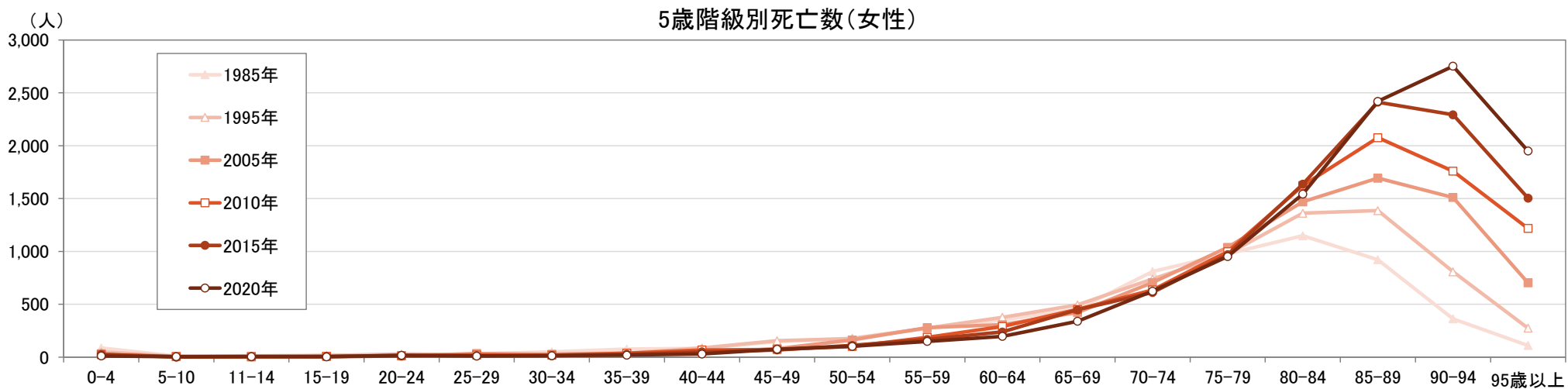
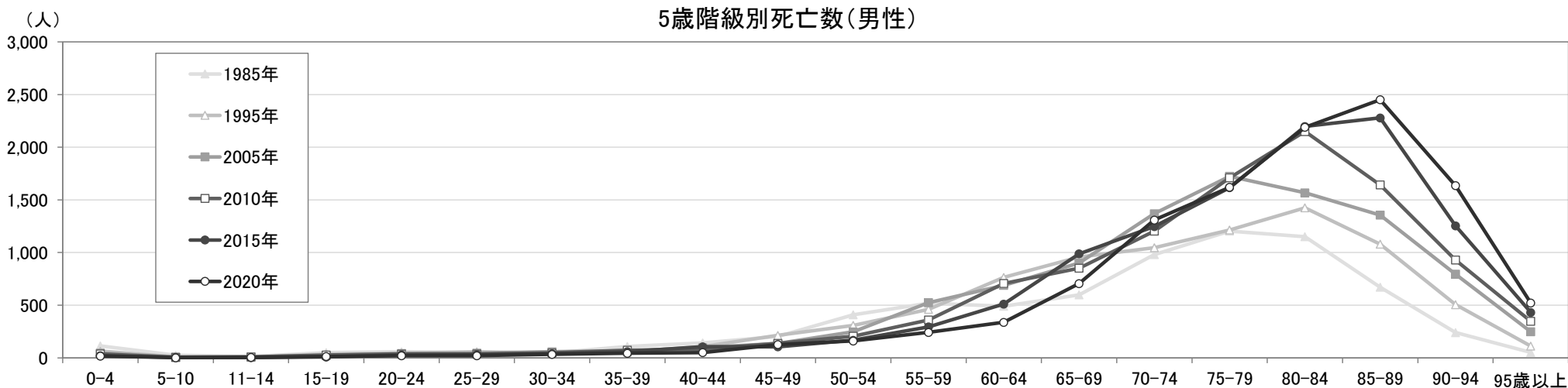
死亡数の増加は、85歳以上の高齢層が顕著



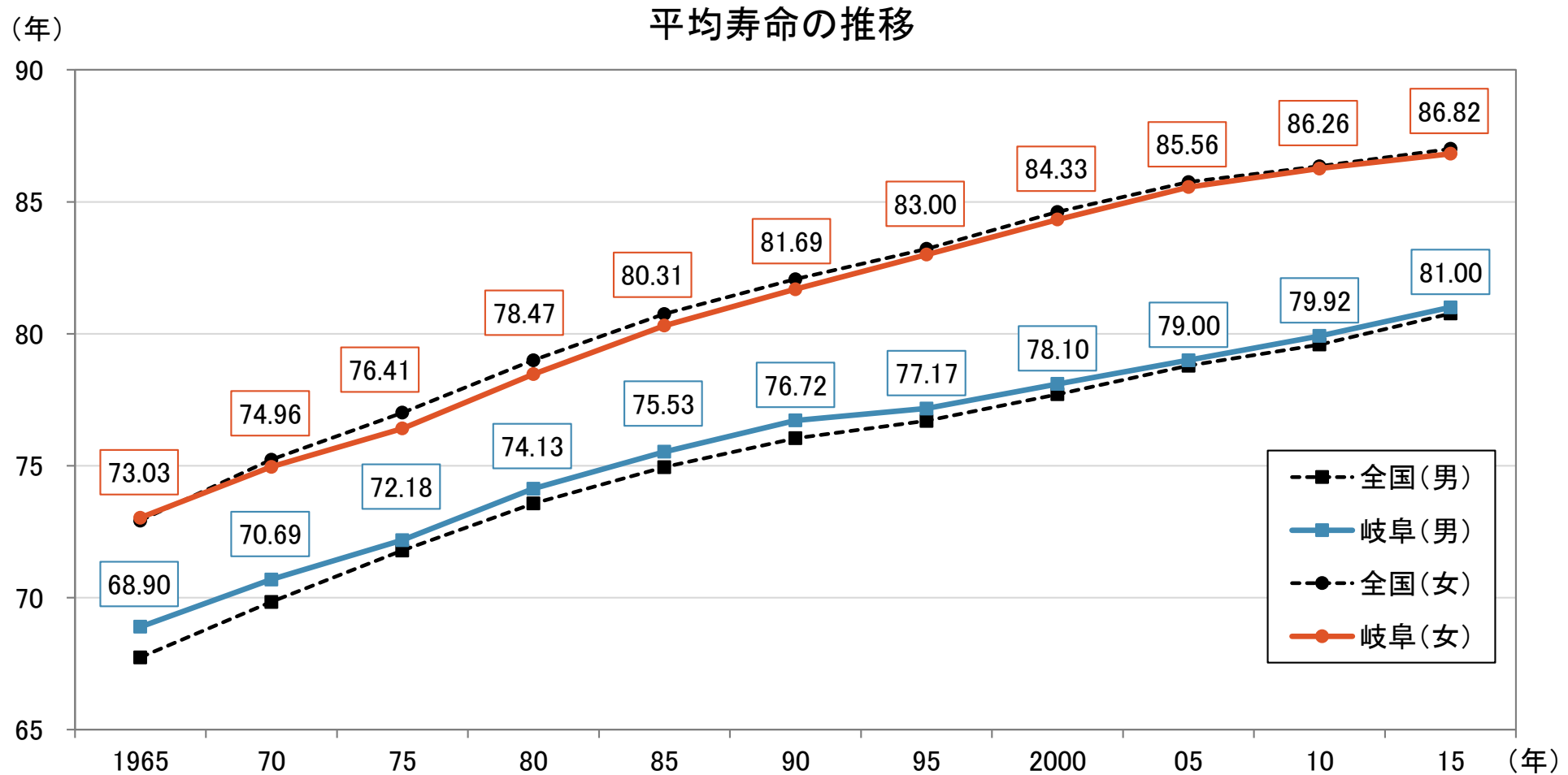
出典：厚生労働省「人口動態統計」 ※年齢不詳は64歳以下に含む。

■死亡のトレンド確認

死亡数のピークは男性は85-89歳、女性は90-94歳にシフト



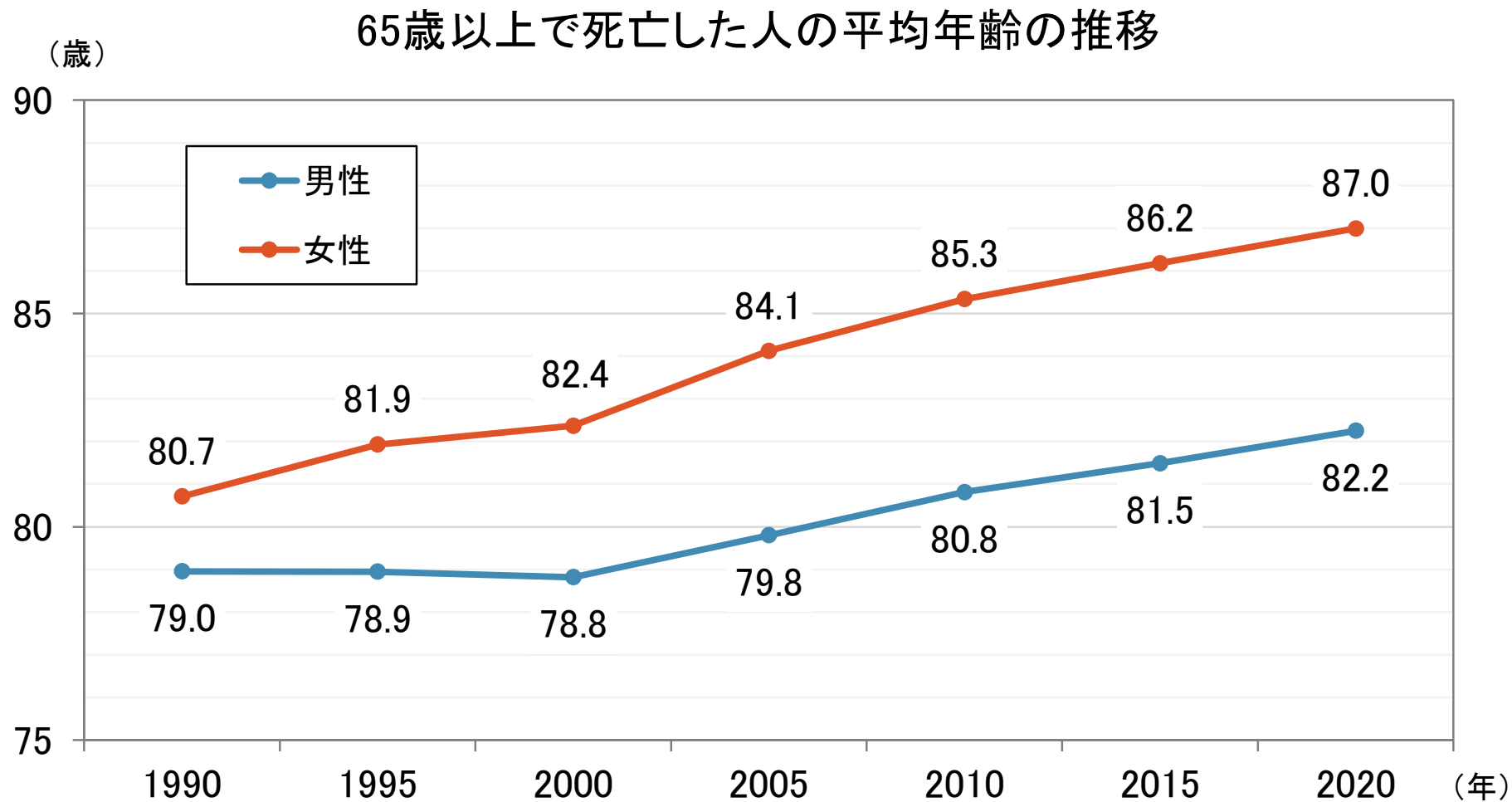
平均寿命は延び続けている



出典：1965～1985年は厚生省「地域別生命表」/1990～1995年は厚生省「都道府県別生命表」/2000～2015年は厚生労働省「都道府県別生命表」
 ※「都道府県別生命表」は国勢調査結果を基に厚生労働省が推計しているため、2015年が最新

■死亡のトレンド確認

65歳以上で死亡した人の平均年齢でも、30年前の1990年と比較して、男性は3歳、女性は6歳寿命が上昇



出典:厚生労働省「人口動態統計」

【生残率の設定方法】

まずは平均寿命の推移を予測し、それに基づいて将来生命表を作成することで、年齢別生残率を推定する

<平均寿命>

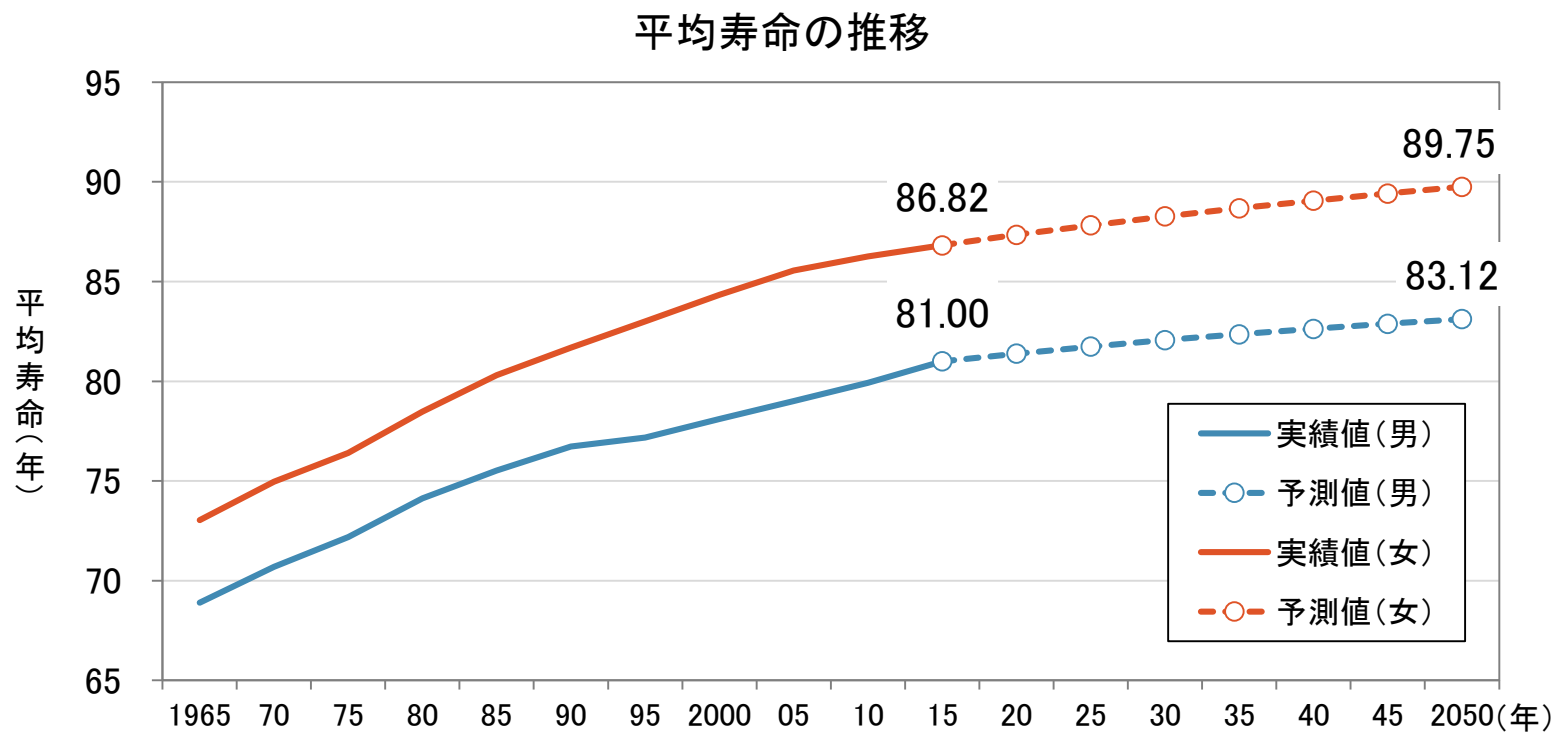
「平均余命」は各年齢の者が生存する年数の平均のことであり、「平均寿命」とは0歳の平均余命のこと。

<生命表>

ある期間における死亡状況（年齢別死亡率）が今後変化しないと仮定したときに、各年齢の者が1年以内に死亡する確率や平均してあと何年生きられるかという期待値などを死亡率や平均余命などの指標によってあらわしたものの。

平均寿命はこれまで延び続けてきた傾向を延長して推定

- 平均寿命はこれまで延び続けてきた傾向を延長して、設定した。
- 具体的には、1965-2015年の男女別平均寿命の年次推移に、最も当てはまりのよい曲線（累乗近似曲線）を近似させて2050年まで延長して推計した。
- 推計した平均寿命を基に、男女・年齢各歳別の生残率を算出し、死亡数を計算。

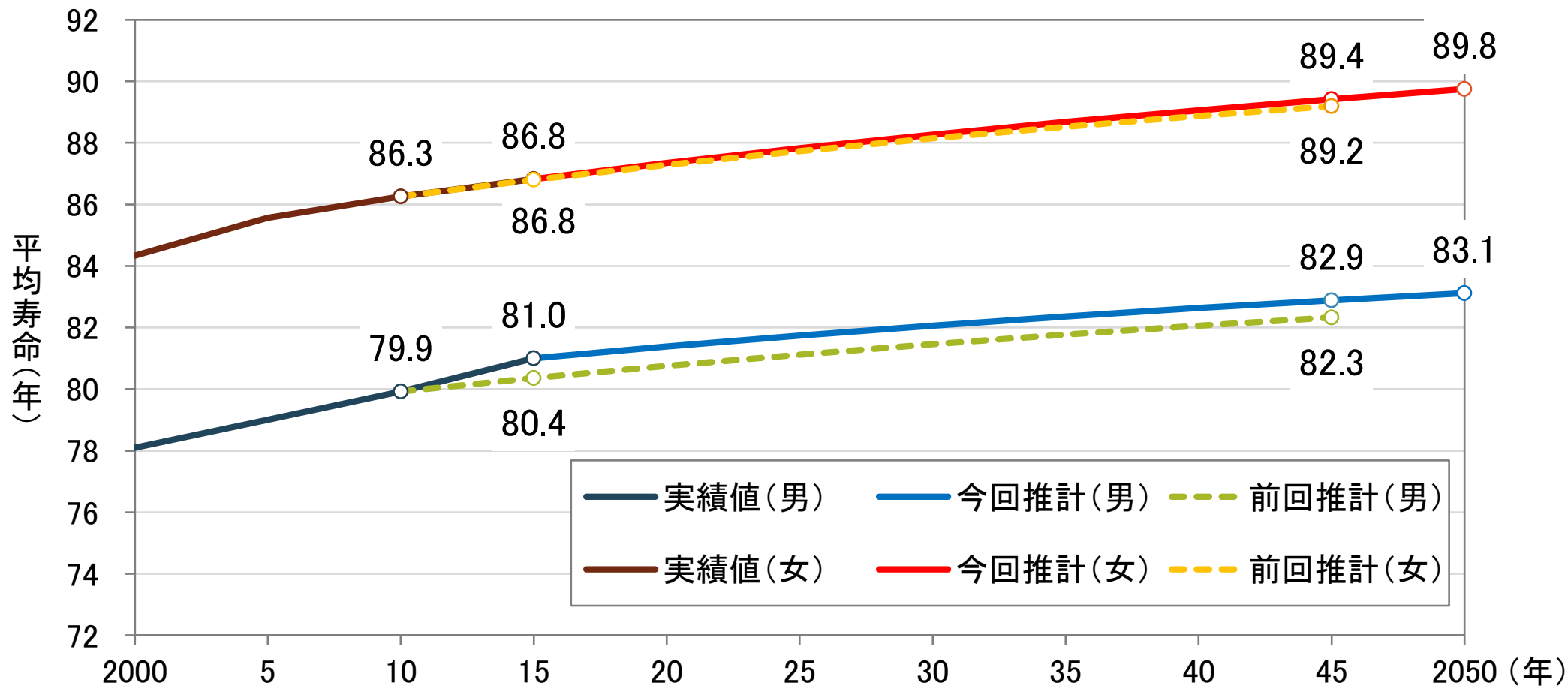


		男	女
実績値	1965年	68.90	73.03
	1970年	70.69	74.96
	1975年	72.18	76.41
	1980年	74.13	78.47
	1985年	75.53	80.31
	1990年	76.72	81.69
	1995年	77.17	83.00
	2000年	78.10	84.33
	2005年	79.00	85.56
	2010年	79.92	86.26
	2015年	81.00	86.82
予測値	2020年	81.39	87.34
	2025年	81.74	87.82
	2030年	82.06	88.27
	2035年	82.36	88.68
	2040年	82.63	89.06
	2045年	82.88	89.42
2050年	83.12	89.75	

■平均寿命の設定

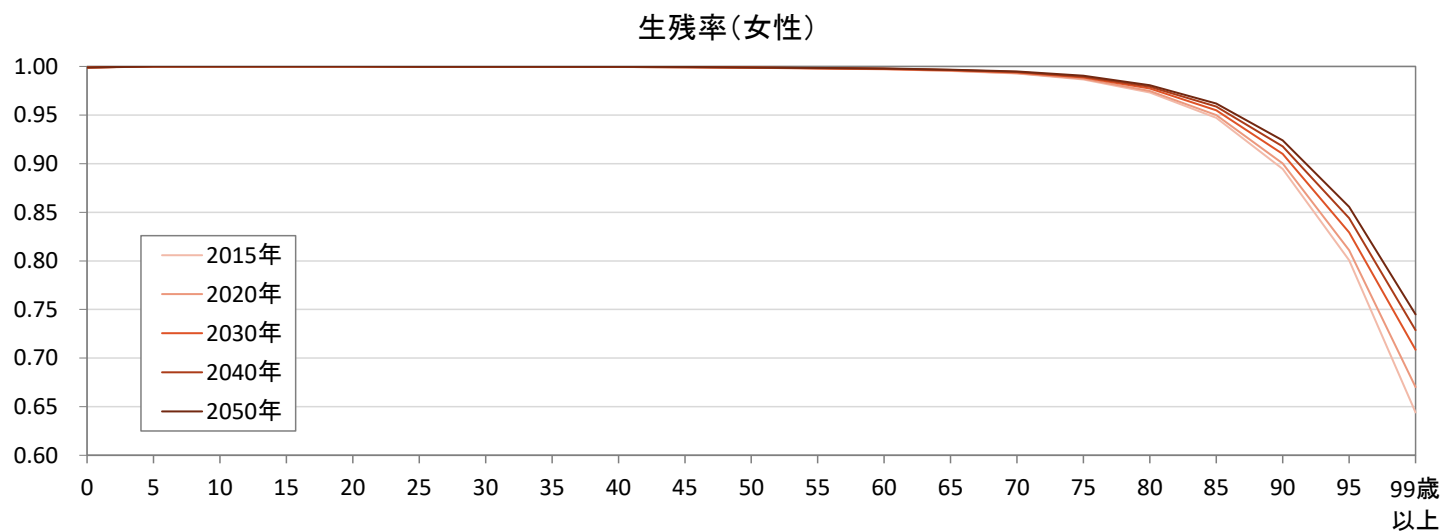
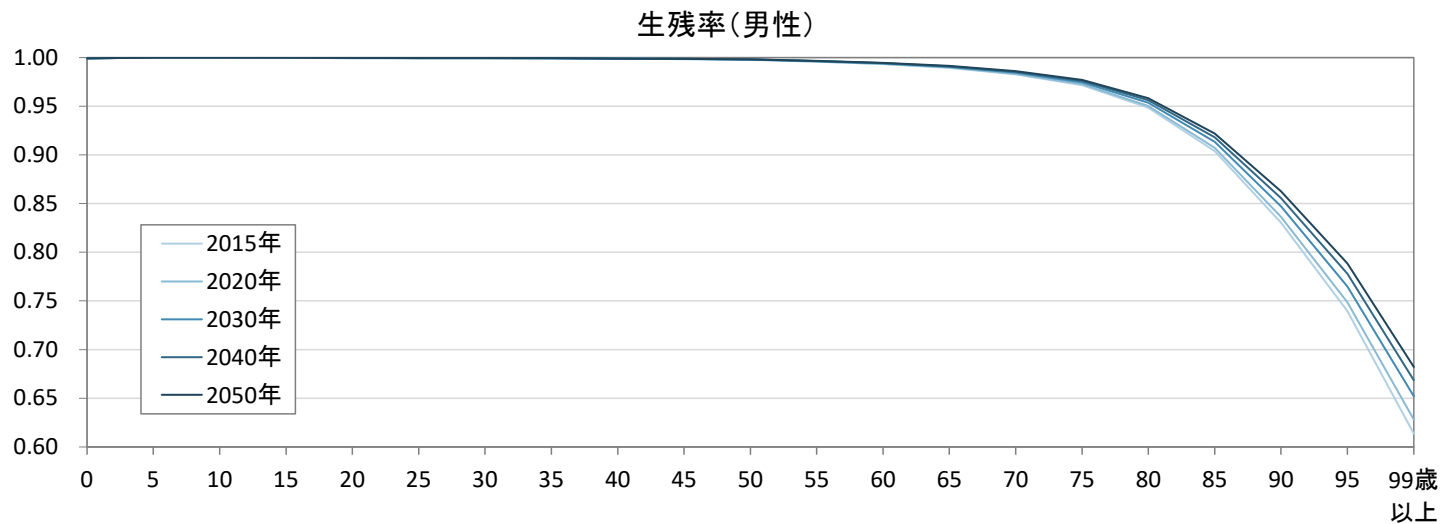
平均寿命は前回推計を上回る上昇をしたため、 将来の予測値も上回る結果となった

平均寿命 今回推計と前回推計の比較



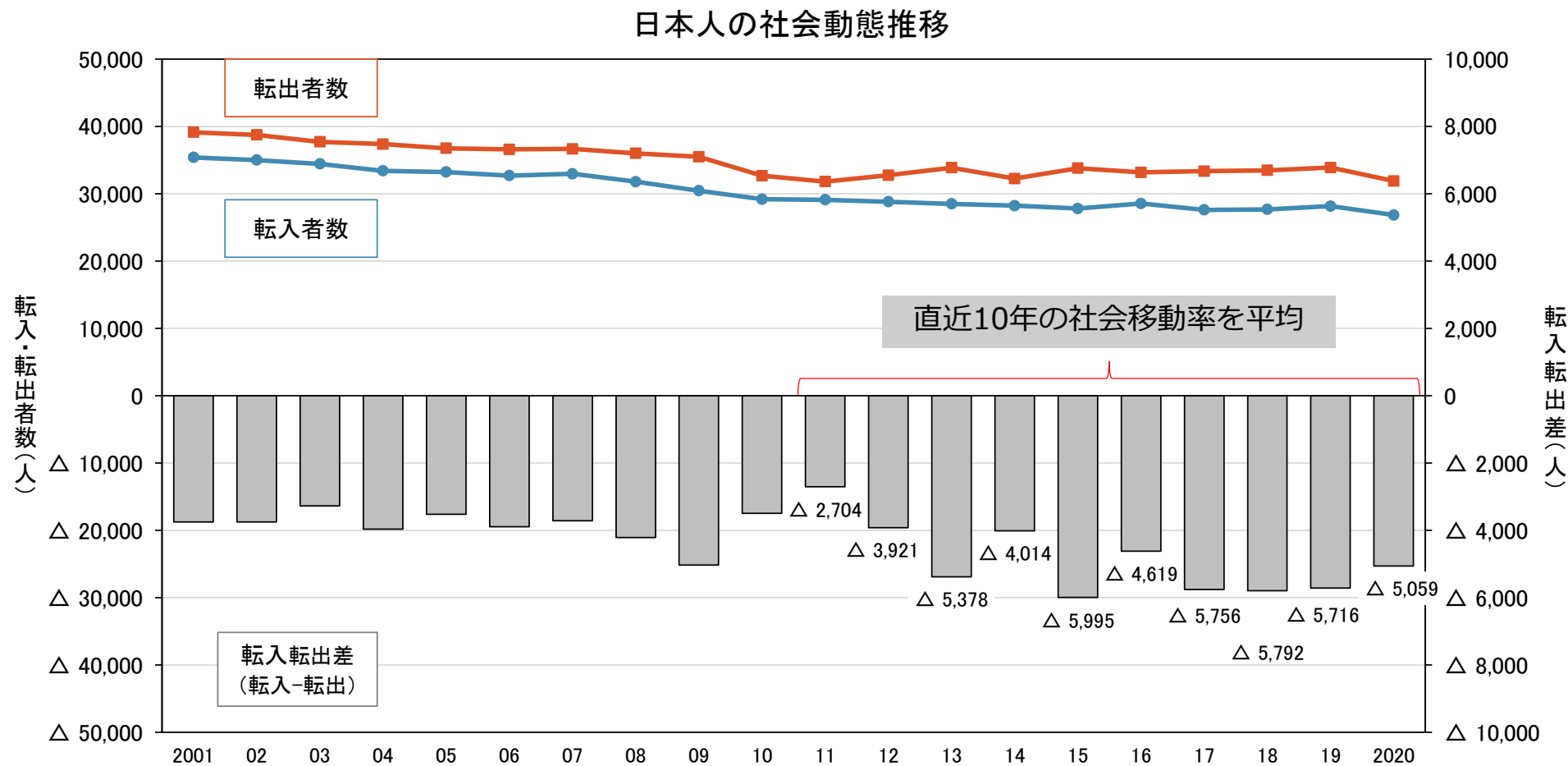
■ 生残率の設定

平均寿命をもとに、生命表における各歳別死亡率を推計することで生存率が計算される



2 将来人口推計の前提条件 (3) 社会移動率の設定

社会移動率は直近10年を平均し設定

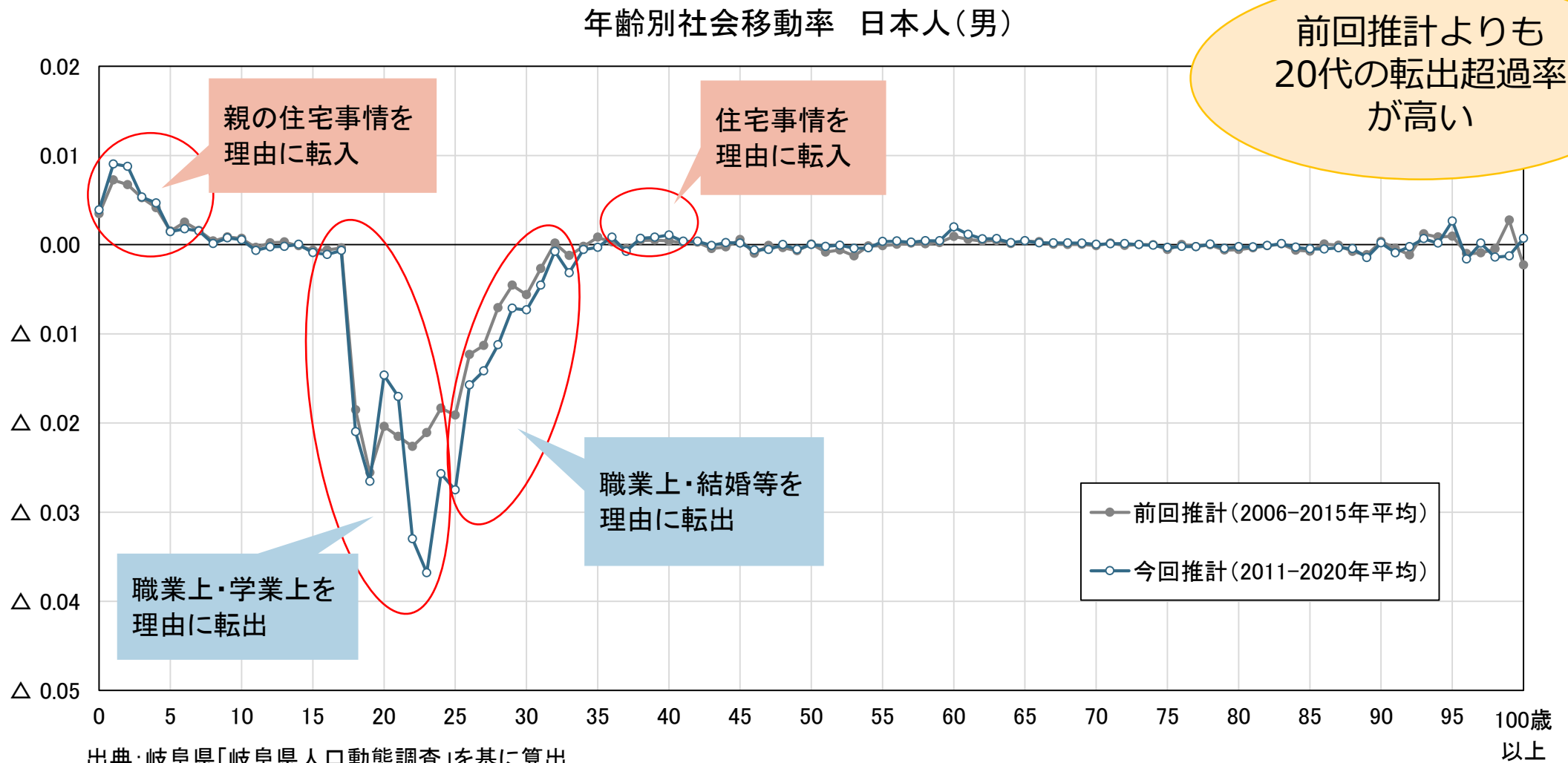


出典: 岐阜県「岐阜県人口動態統計調査」

$$\text{社会移動率} = 1 \text{ 年間の転入転出差} \div \text{期首人口}$$

■社会移動率の設定

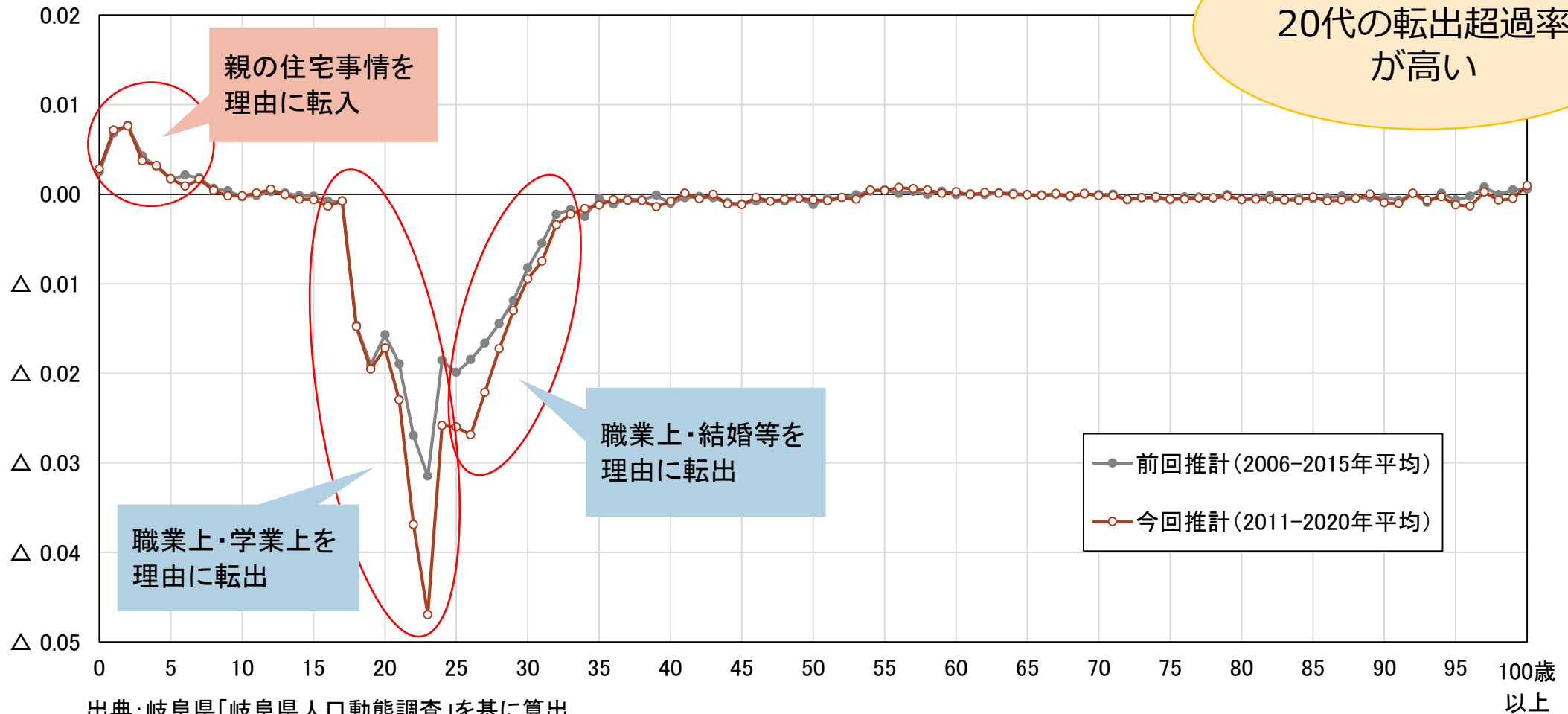
男性は、0～4歳は転入超過の傾向にあるものの、 15～34歳の転出超過が大きい傾向にある



■社会移動率の設定

女性は、0～4歳は転入超過の傾向にあるものの、 15～34歳の転出超過が大きい傾向にある

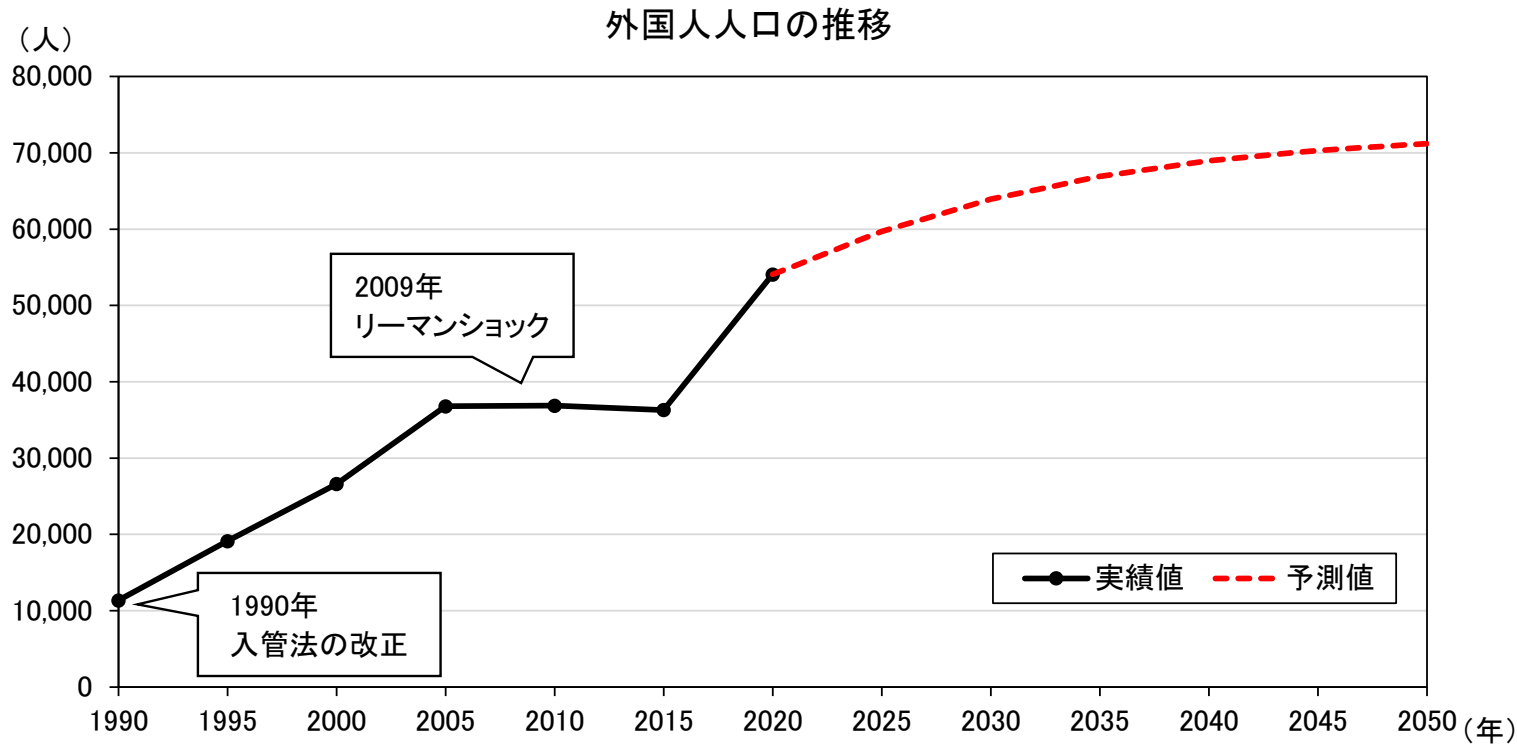
年齢別社会移動率 日本人(女)



2 将来人口推計の前提条件 (4) 外国人人口の設定

急増した1990年（入管法改正）以降の実績を延長

- 外国人人口は、制度改革や景気動向の影響を大きく受けるが、将来起こりえる人口増減の要因を推測することは困難。
- また、出生や死亡等の基礎データが乏しいため、日本人と同様の推計方法を用いることは難しい。
- よって、外国人人口の推計にあたっては、総数による延長推計を行うこととする。
- 具体的には、外国人人口が急増した1990年以降の実績値にロジスティック曲線をあてはめて推計した。



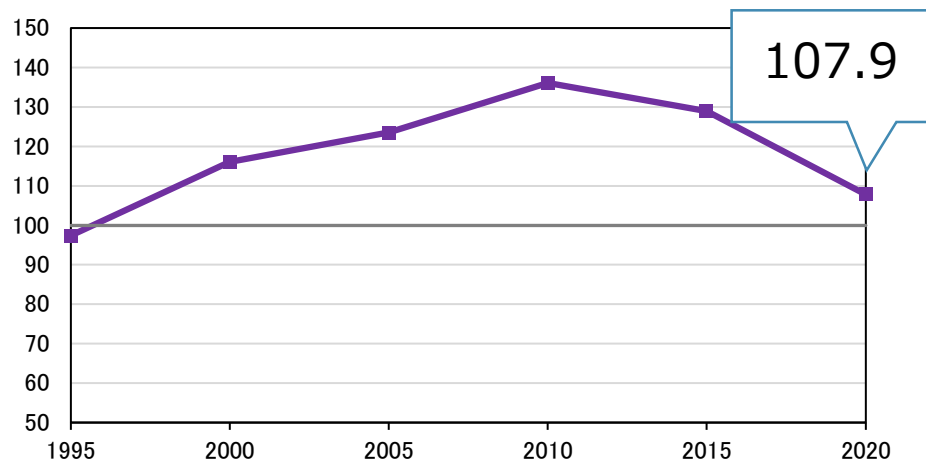
		総数
実績値	1990年	11,344
	1995年	19,132
	2000年	26,599
	2005年	36,793
	2010年	36,879
	2015年	36,312
予測値	2020年	54,061
	2025年	59,705
	2030年	63,926
	2035年	66,917
	2040年	68,958
	2045年	70,314
	2050年	71,199

■外国人人口の設定

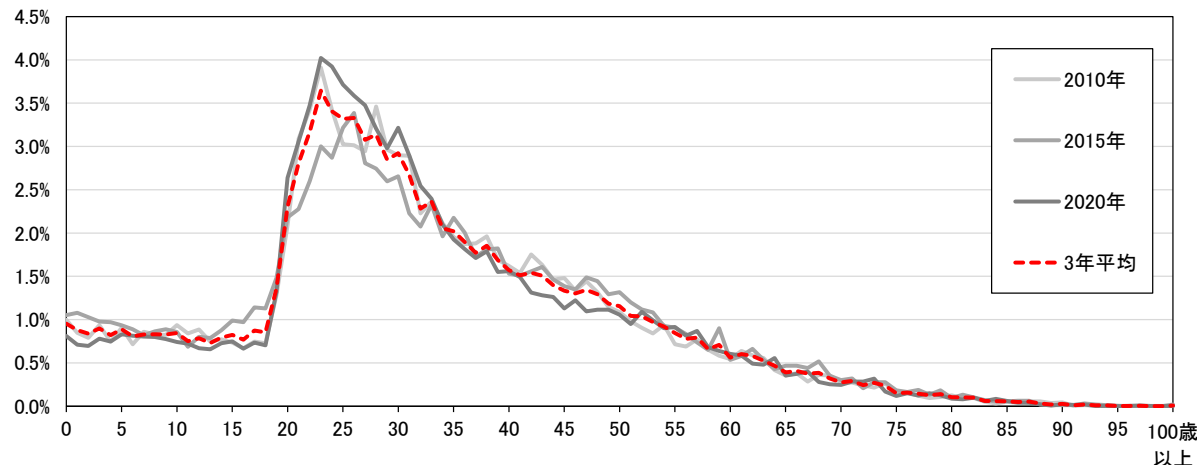
外国人の性比は2020年国勢調査を固定 年齢構成比は国勢調査直近3年の平均値を固定した

- 性比は2020年国勢調査結果で固定。
- 年齢構成比は直近3回の国勢調査結果を平均した数値で固定。

外国人性比(女性=100)

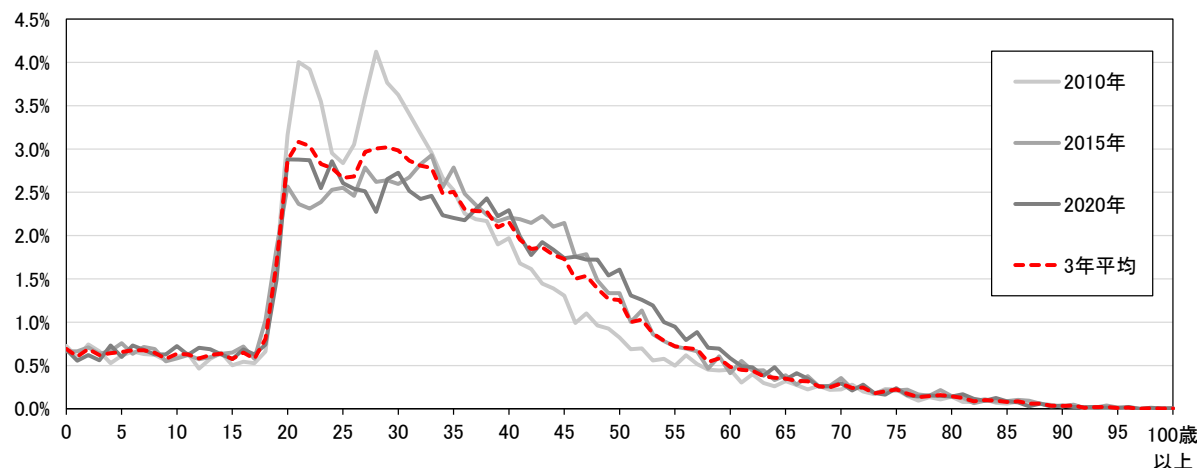


年齢構成比(男)



出典:総務省「国勢調査」

年齢構成比(女)

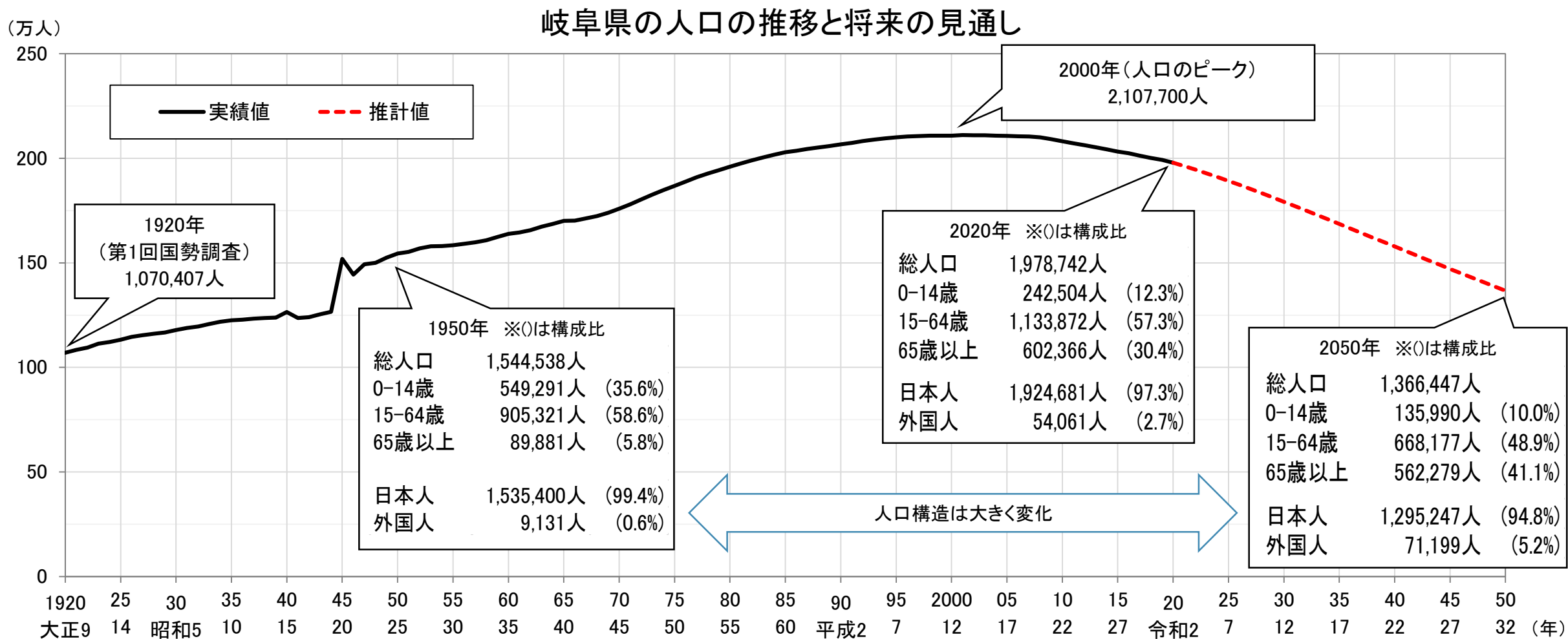


出典:総務省「国勢調査」

3 将来人口推計結果の詳細

※ 単位未満を四捨五入して表示しているため、
計算が一致しない場合がある。

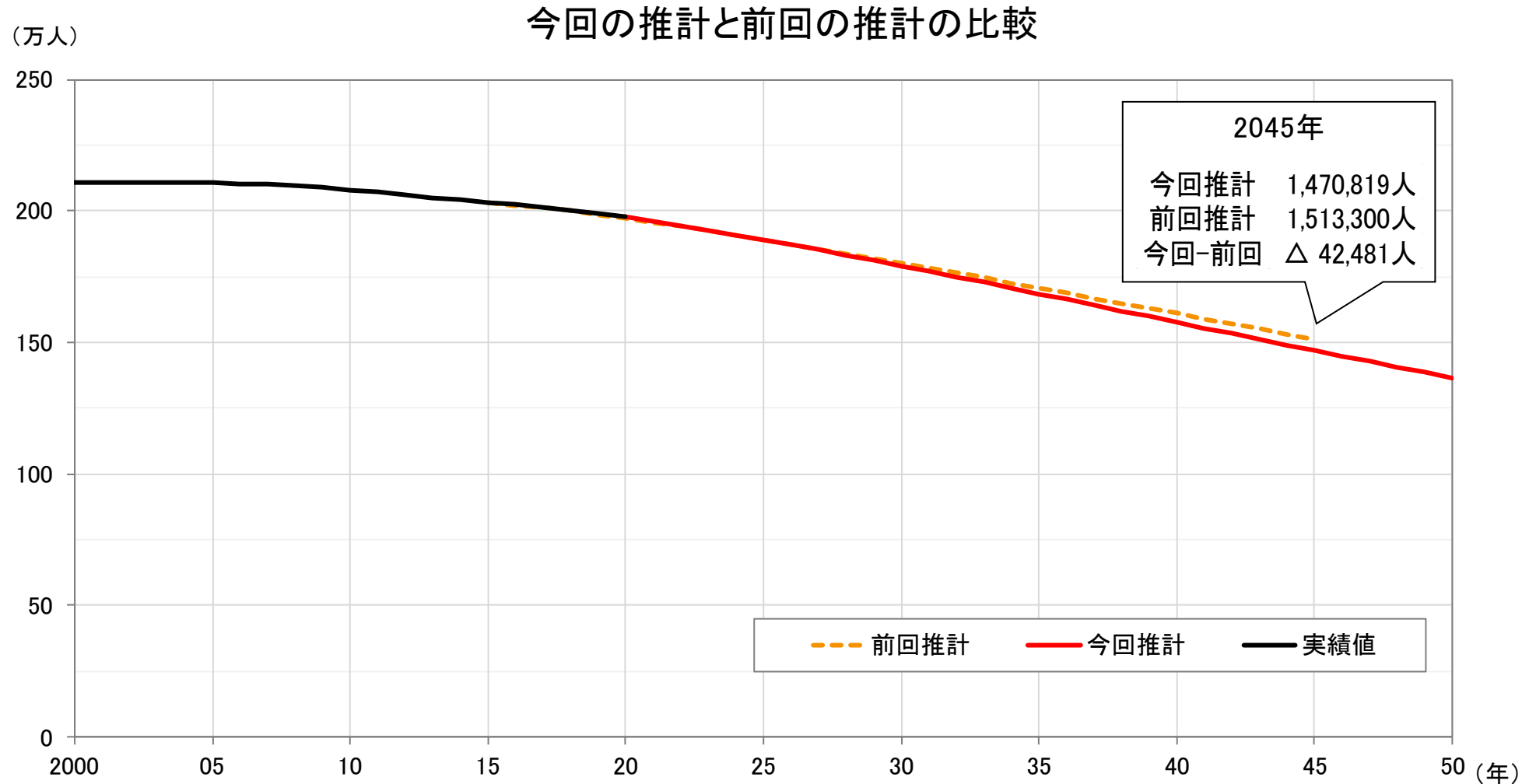
30年後の2050年には137万人に（61万人の大幅減）



出典:総務省「国勢調査(1945年は「人口調査）」、総務省「人口推計(国勢調査による補間補正人口)」

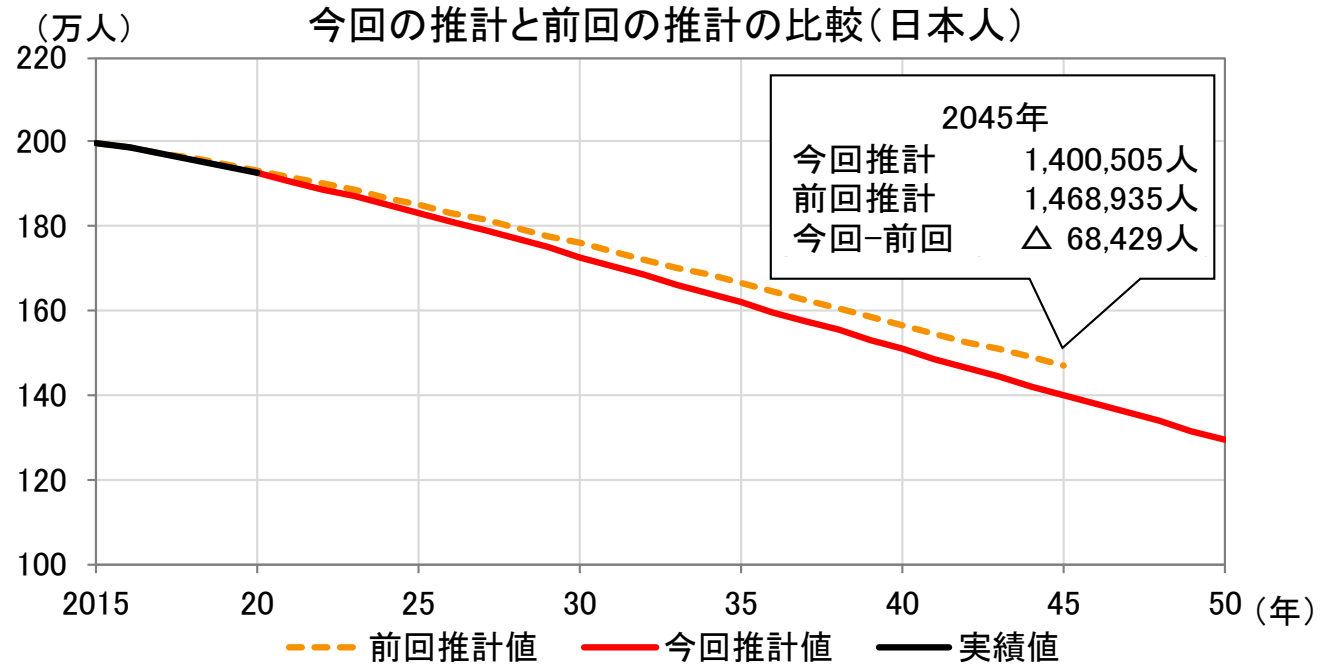
※ 将来人口(2050年)は単位未満を四捨五入して表示しているため、計算が一致しない場合がある。

前回推計と比較すると、総人口の減少ペースは速くなった



日本人人口の減少ペースは速くなった

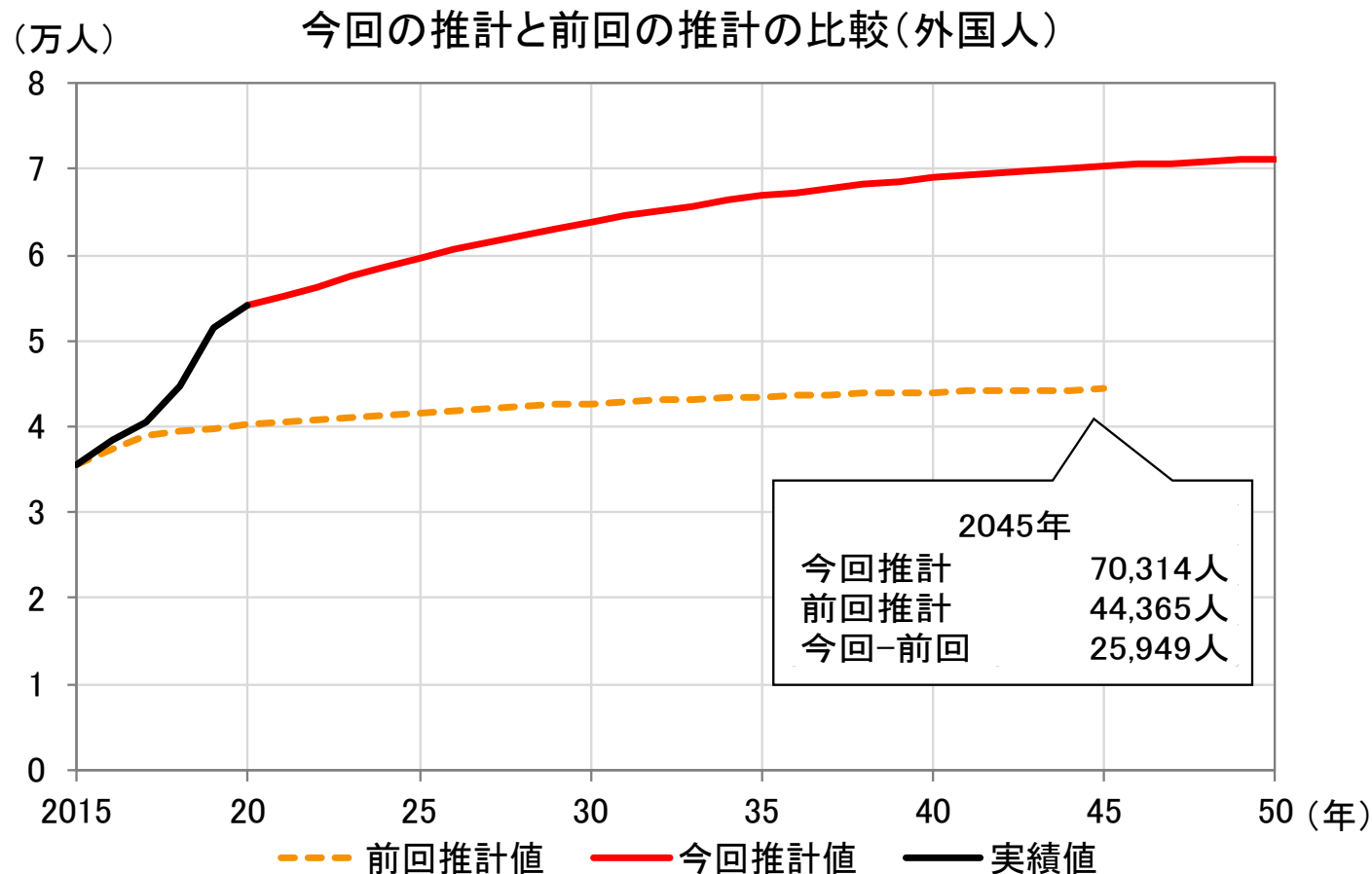
平均寿命は上昇したものの、合計特殊出生率の低下及び若者の転出超過率の上昇により人口減少のペースは速くなった



	2015年国勢調査基準の仮定値	2020年国勢調査基準の仮定値
合計特殊出生率	2015年 1.563 → 2045年 1.545	2020年 1.419 → 2050年 1.417
平均寿命	2045年 男 82.32年 女 89.19年	2050年 男 83.12年 女 89.75年
社会移動率	直近10年(2006-2015年) 平均 全年齢平均 男 Δ0.18% 女 Δ0.23%	直近10年(2011-2020年) 平均 全年齢平均 男 Δ0.23% 女 Δ0.31%

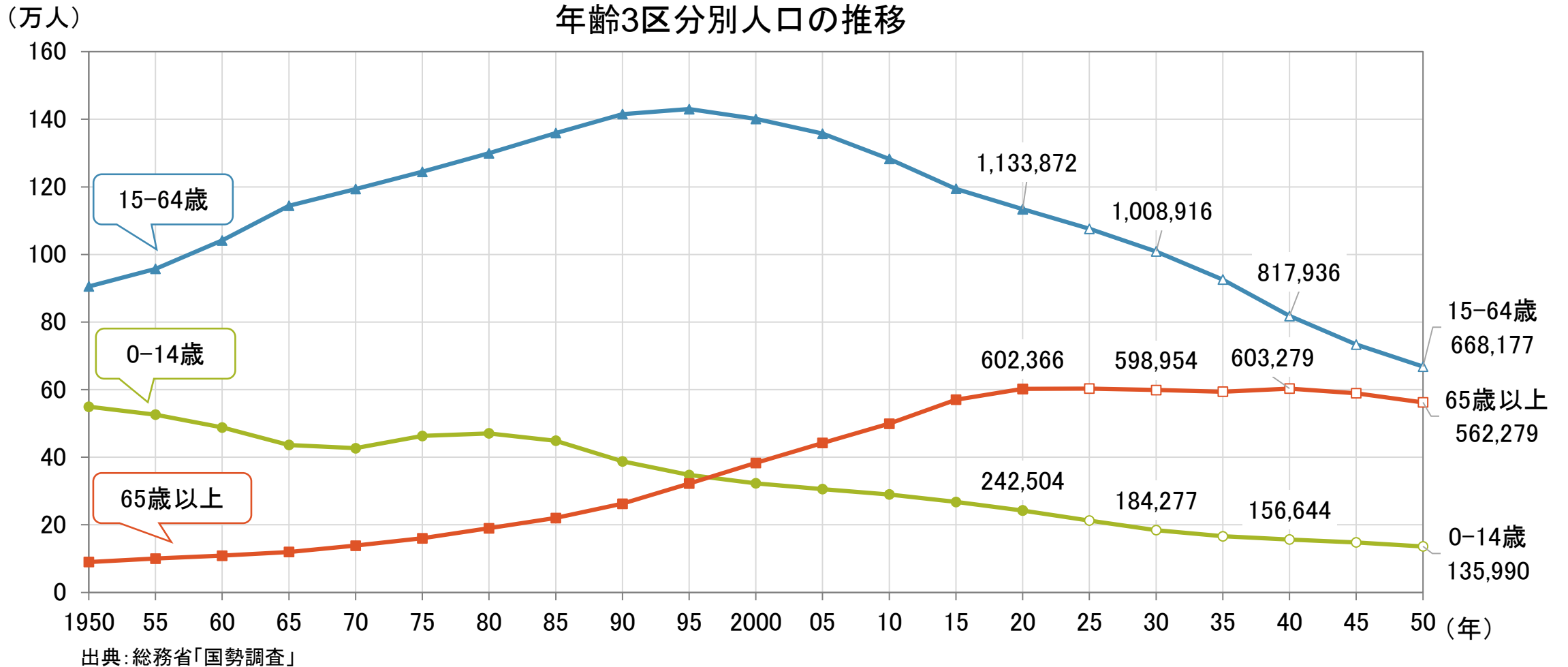
外国人人口の増加ペースは大幅に速くなった

2015年から2020年にかけて急激に外国人人口が増加したことにより、前回の推計値よりも大幅増となる見込みになった



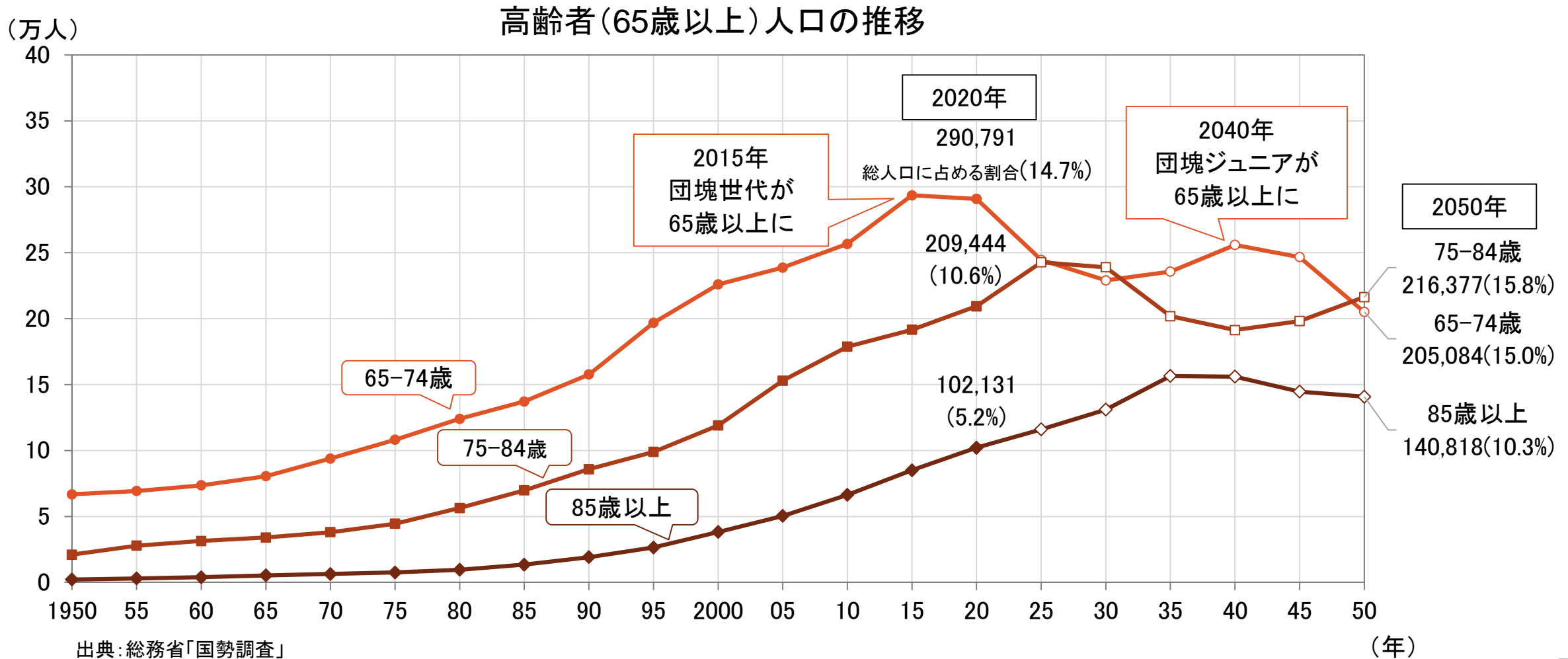
■将来人口推計結果

地域を支える現役世代（15-64歳）は47万人減少 0-14歳（11万人減）と65歳以上（4万人減）も減少する

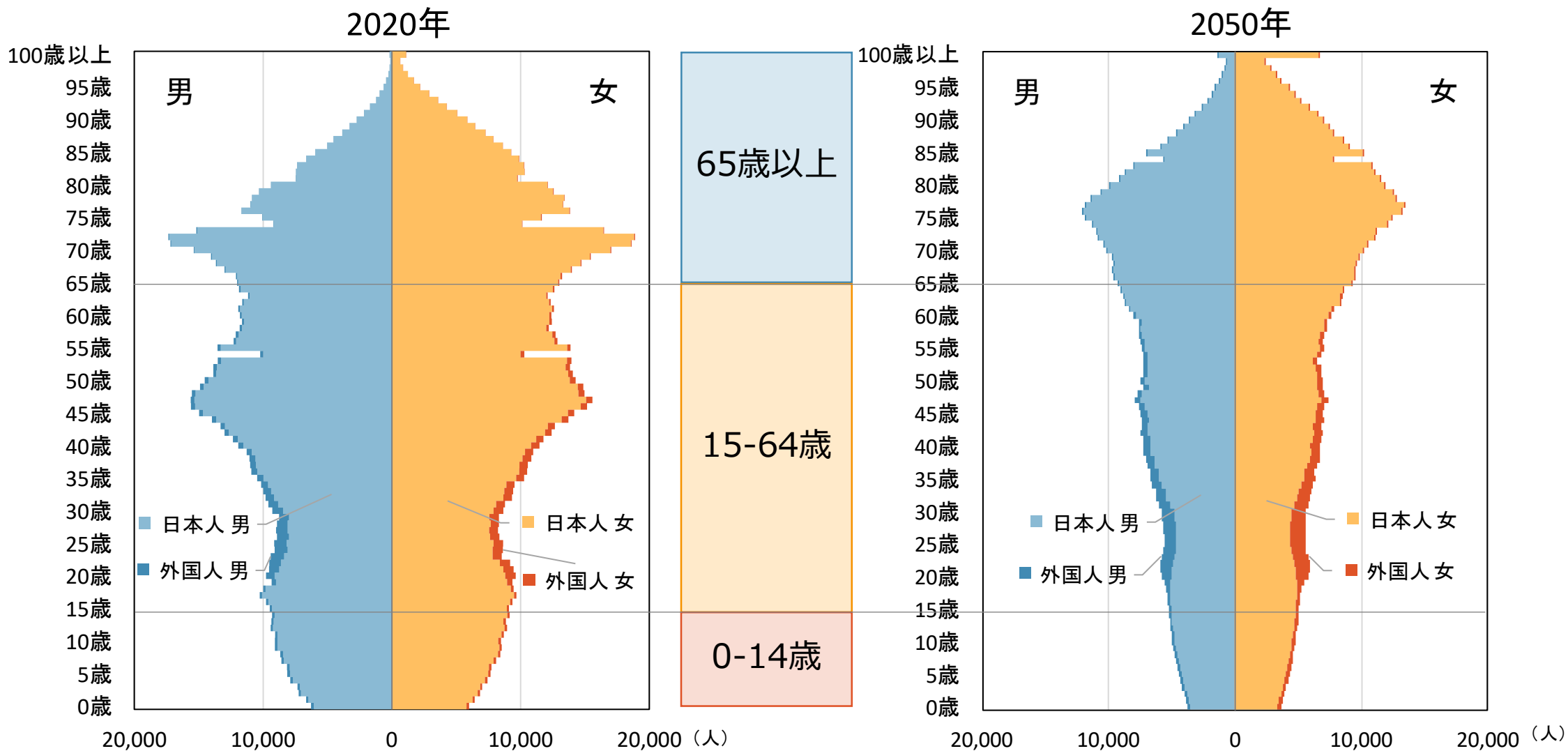


■将来人口推計結果

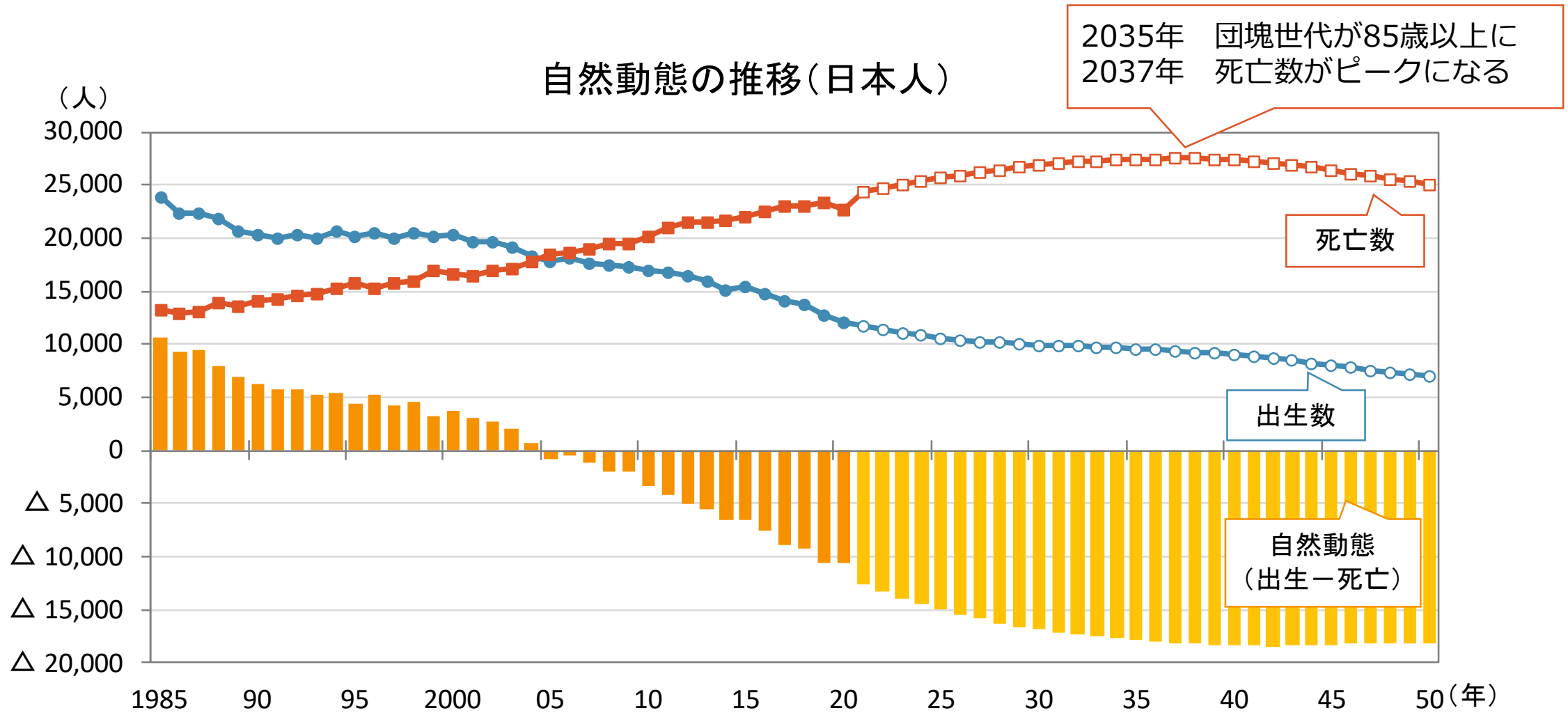
65-74歳のピークは2015年、75-84歳のピークは2025年、85歳以上のピークは2035年とみられる



65歳以上の人口に大きな厚みがある構造に変化



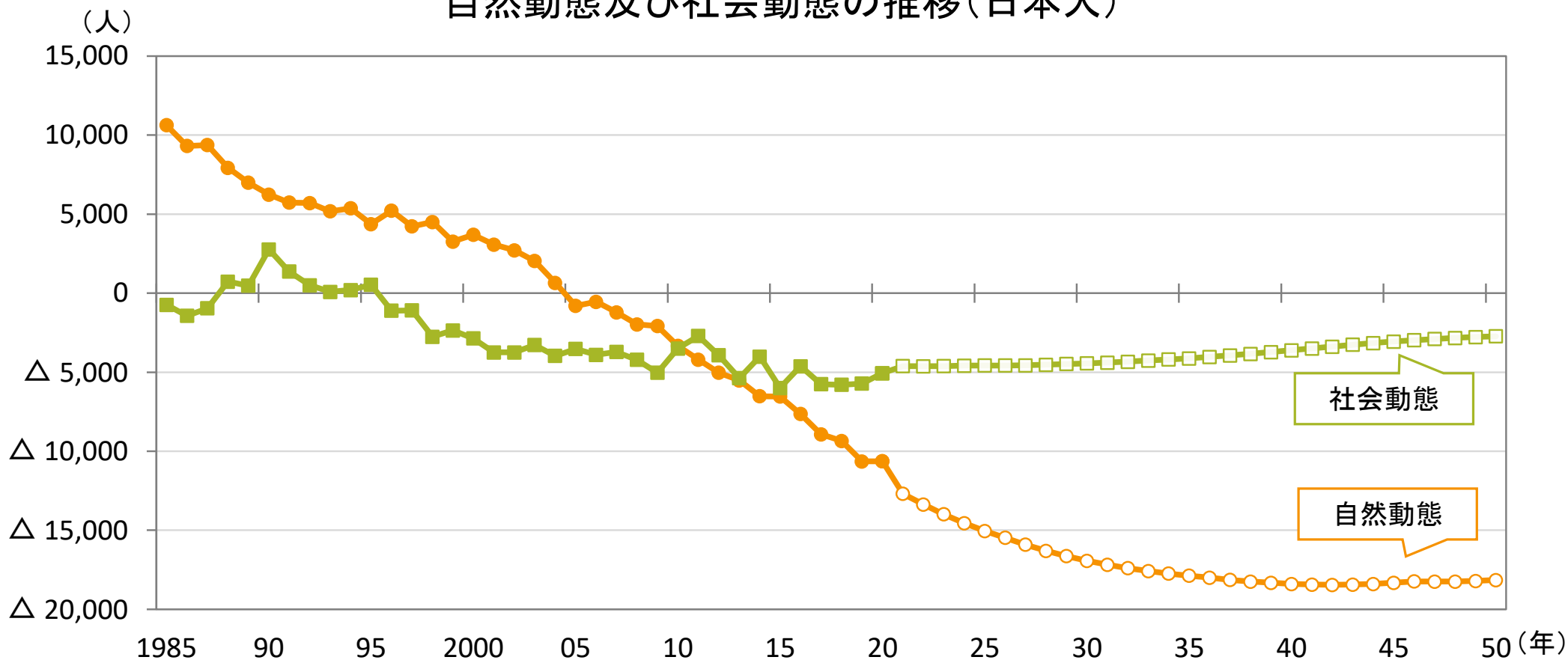
出生数の減少、死亡数の増加により自然減は20年間 拡大を続ける見込み



実績値(2020年まで)は厚生労働省「人口動態統計」

社会動態による減少よりも自然動態による人口減少がより一層大きくなる見込み

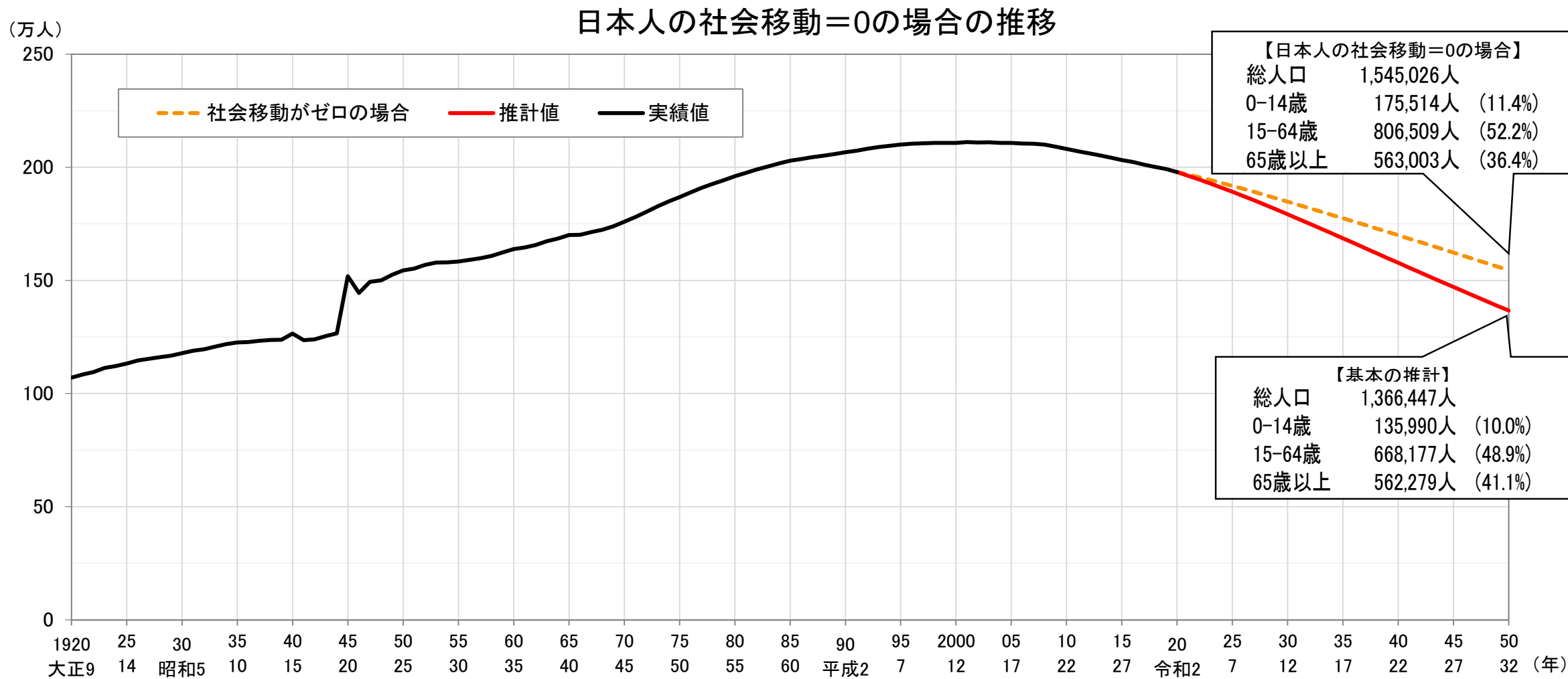
自然動態及び社会動態の推移(日本人)



実績値(2020年まで)の自然動態は厚生労働省「人口動態統計」、社会動態は県「岐阜県人口動態統計調査」

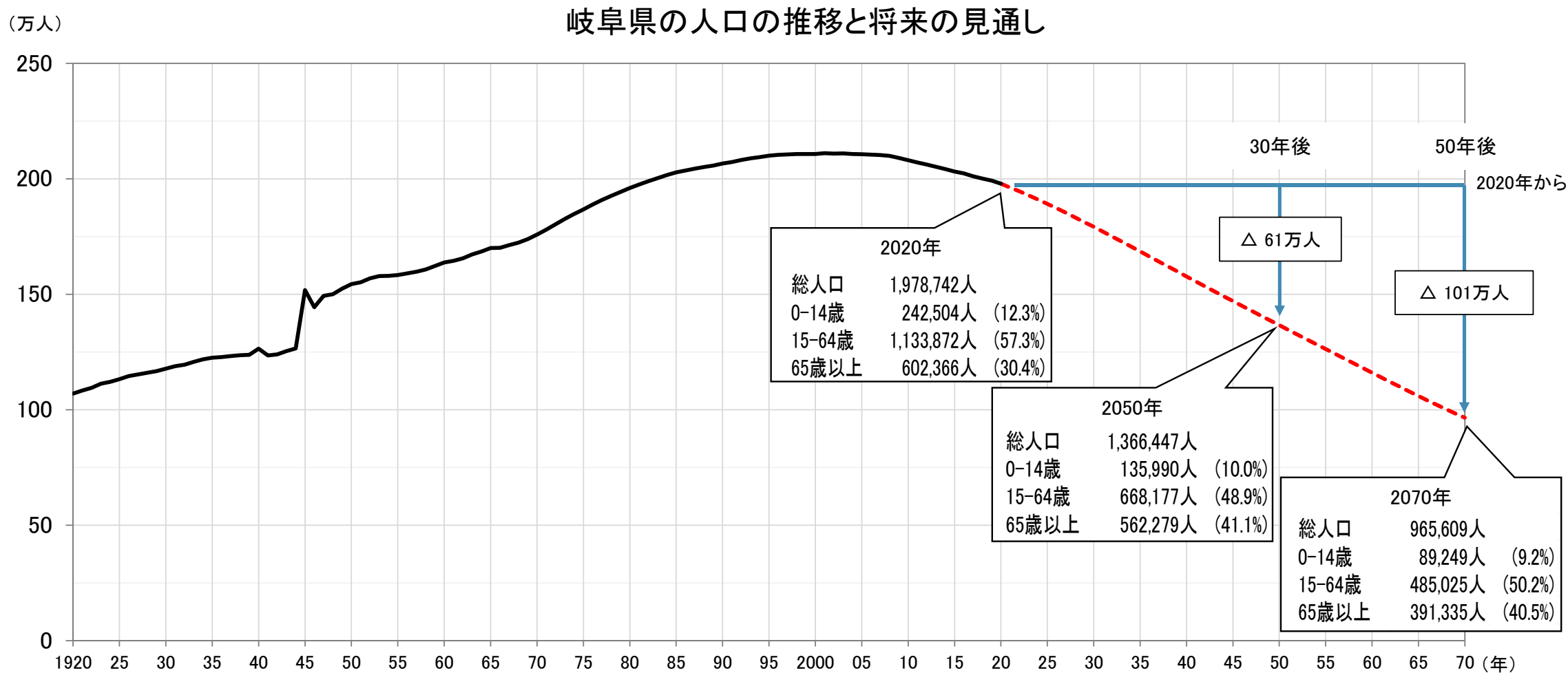
■将来人口推計結果

日本人の転出超過がない（社会移動=0）と仮定しても、自然動態（出生-死亡）だけで43万人減少



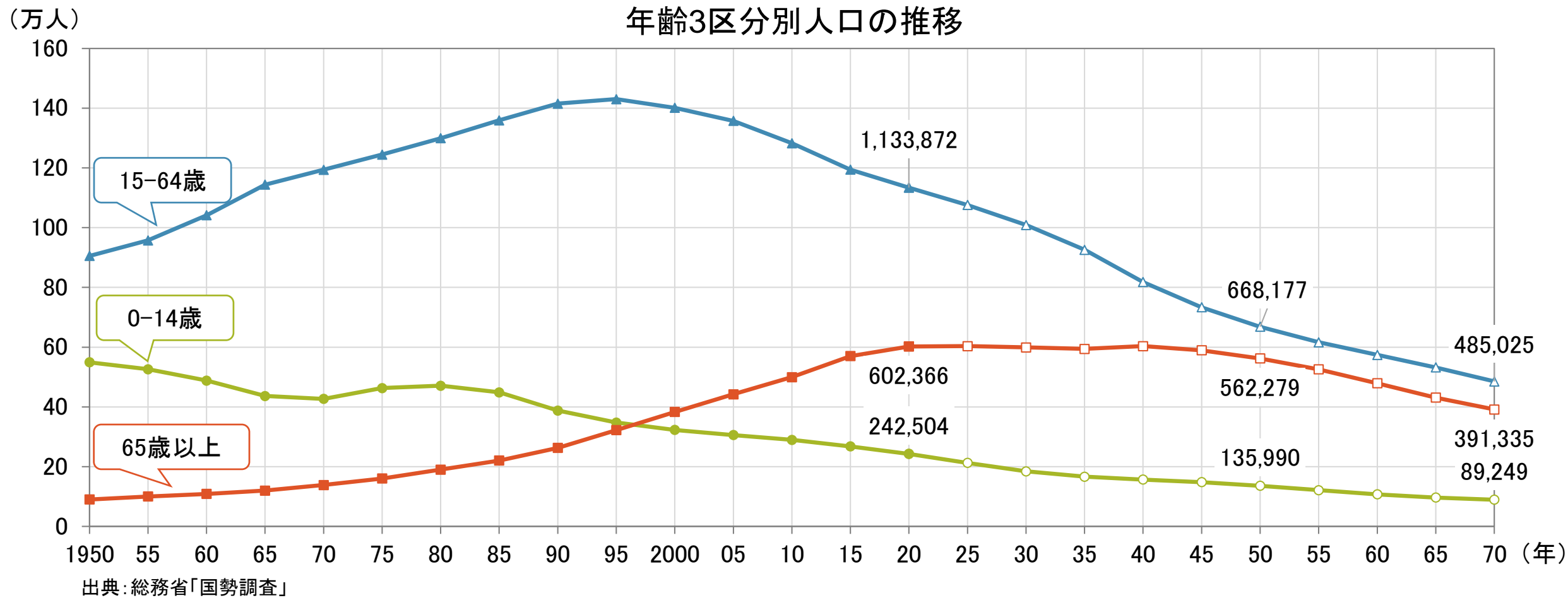
出典：総務省「国勢調査(1945年は「人口調査」)」、総務省「人口推計(国勢調査による補間補正人口)」

【参考】50年後の2070年は97万人に（101万人減）



出典：総務省「国勢調査(1945年は「人口調査）」、総務省「人口推計(国勢調査による補間補正人口)」

地域を支える現役世代（15-64歳）は65万人の減少



■今回行った推計結果のまとめ

長期にわたり人口が減少していく傾向が改めて確認され、 前回の推計よりも人口減少のペースは速くなった

30年後の岐阜県人口は137万人と、2020年と比べ61万人の大幅減

- 2050年の岐阜県の人口は1950年（昭和25年）頃の人口に相当。しかし、65歳以上人口の割合が5.8%から41.1%になるなど、人口構造は全く異なる。
- 地域を支える現役世代（15-64歳）は47万人減少するとみられる。
- 65歳以上人口は今後横ばいで推移するが、85歳以上人口は2035年頃まで増加を続けるとみられる。団塊ジュニア世代が65歳を超える2040年頃から、再び高齢者が増加。

前回（2015年国勢調査基準）に行った将来推計と比較しても、人口が減少するトレンドには変化がない

- 今回の推計と前回の推計を比較すると、平均寿命が上昇したものの、合計特殊出生率の低下及び転出超過率の上昇により、人口減少のペースは速くなった。

日本人の転出超過がない（社会移動=0）としても、出生-死亡だけで43万人減少

- 高齢者の増加に伴い、死亡数も増加。出生数を死亡数が上回る自然現象はさらに拡大していく。

参考資料：岐阜県の将来人口の推移

		R02 2020	R03 2021	R04 2022	R05 2023	R06 2024	R07 2025	R08 2026	R09 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R15 2033	R16 2034	R17 2035
人口総数	(人)	1,978,742	1,962,569	1,945,713	1,928,243	1,910,241	1,891,755	1,872,554	1,852,920	1,832,943	1,812,673	1,792,147	1,771,176	1,750,047	1,728,809	1,707,474	1,686,071
男性	(人)	960,436	950,475	941,992	933,196	924,136	914,837	905,193	895,340	885,327	875,182	864,922	854,467	843,953	833,402	822,826	812,248
女性	(人)	1,018,306	1,012,094	1,003,721	995,047	986,105	976,918	967,361	957,580	947,616	937,491	927,225	916,709	906,094	895,407	884,649	873,823
0-14歳	(人)	242,504	236,896	230,995	224,636	218,578	212,531	206,166	200,166	194,430	189,375	184,277	179,486	175,499	171,599	168,509	166,208
15-64歳	(人)	1,133,872	1,121,771	1,110,998	1,099,852	1,087,780	1,075,928	1,064,206	1,052,137	1,039,084	1,025,022	1,008,916	998,965	981,660	964,170	945,706	925,817
65歳以上	(人)	602,366	603,902	603,720	603,756	603,883	603,296	602,182	600,616	599,429	598,277	598,954	592,726	592,889	593,041	593,259	594,046
(再掲)75歳以上	(人)	311,575	311,310	322,288	336,707	349,781	358,814	364,421	368,365	370,423	370,497	369,923	368,438	365,617	363,173	360,996	358,359
0-14歳	(%)	12.3	12.1	11.9	11.6	11.4	11.2	11.0	10.8	10.6	10.4	10.3	10.1	10.0	9.9	9.9	9.9
15-64歳	(%)	57.3	57.2	57.1	57.0	56.9	56.9	56.8	56.8	56.7	56.5	56.3	56.4	56.1	55.8	55.4	54.9
65歳以上	(%)	30.4	30.8	31.0	31.3	31.6	31.9	32.2	32.4	32.7	33.0	33.4	33.5	33.9	34.3	34.7	35.2
(再掲)75歳以上	(%)	15.7	15.9	16.6	17.5	18.3	19.0	19.5	19.9	20.2	20.4	20.6	20.8	20.9	21.0	21.1	21.3
人口増減	(人)		△ 16,173	△ 16,856	△ 17,470	△ 18,002	△ 18,486	△ 19,201	△ 19,634	△ 19,977	△ 20,270	△ 20,526	△ 20,971	△ 21,129	△ 21,238	△ 21,335	△ 21,403
日本人	(人)		△ 17,302	△ 17,985	△ 18,599	△ 19,131	△ 19,615	△ 20,045	△ 20,478	△ 20,821	△ 21,114	△ 21,370	△ 21,569	△ 21,727	△ 21,837	△ 21,933	△ 22,002
自然動態	(人)		△ 12,691	△ 13,369	△ 13,989	△ 14,548	△ 15,040	△ 15,471	△ 15,912	△ 16,297	△ 16,637	△ 16,931	△ 17,181	△ 17,394	△ 17,578	△ 17,737	△ 17,877
出生数	(人)		11,740	11,405	11,106	10,844	10,618	10,430	10,274	10,146	10,037	9,946	9,869	9,799	9,728	9,653	9,569
死亡数	(人)		24,431	24,774	25,095	25,391	25,658	25,902	26,187	26,443	26,674	26,877	27,049	27,193	27,306	27,390	27,446
社会動態	(人)		△ 4,610	△ 4,616	△ 4,609	△ 4,584	△ 4,575	△ 4,574	△ 4,566	△ 4,524	△ 4,477	△ 4,439	△ 4,389	△ 4,333	△ 4,259	△ 4,196	△ 4,125
外国人	(人)		1,129	1,129	1,129	1,129	1,129	844	844	844	844	844	598	598	598	598	598

		R18 2036	R19 2037	R20 2038	R21 2039	R22 2040	R23 2041	R24 2042	R25 2043	R26 2044	R27 2045	R28 2046	R29 2047	R30 2048	R31 2049	R32 2050
人口総数	(人)	1,664,447	1,642,781	1,621,104	1,599,459	1,577,859	1,556,197	1,534,635	1,513,212	1,491,929	1,470,819	1,449,794	1,428,831	1,407,940	1,387,140	1,366,447
男性	(人)	801,608	790,983	780,400	769,878	759,435	749,017	738,700	728,497	718,393	708,382	698,409	688,472	678,565	668,673	658,787
女性	(人)	862,840	851,798	840,705	829,581	818,425	807,180	795,936	784,715	773,536	762,438	751,385	740,359	729,375	718,467	707,660
0-14歳	(人)	163,925	161,878	160,017	158,290	156,644	155,012	153,363	151,653	149,849	147,923	145,844	143,609	141,217	138,672	135,990
15-64歳	(人)	904,889	883,153	860,649	838,531	817,936	798,639	781,030	763,974	748,264	733,395	719,572	706,246	693,225	680,357	668,177
65歳以上	(人)	595,634	597,750	600,439	602,638	603,279	602,546	600,243	597,586	593,816	589,500	584,377	578,976	573,499	568,111	562,279
(再掲)75歳以上	(人)	355,460	352,368	349,876	347,682	347,390	341,128	340,977	341,088	341,555	342,833	345,149	348,117	351,783	355,135	357,195
0-14歳	(%)	9.8	9.9	9.9	9.9	9.9	10.0	10.0	10.0	10.0	10.1	10.1	10.1	10.0	10.0	10.0
15-64歳	(%)	54.4	53.8	53.1	52.4	51.8	51.3	50.9	50.5	50.2	49.9	49.6	49.4	49.2	49.0	48.9
65歳以上	(%)	35.8	36.4	37.0	37.7	38.2	38.7	39.1	39.5	39.8	40.1	40.3	40.5	40.7	41.0	41.1
(再掲)75歳以上	(%)	21.4	21.4	21.6	21.7	22.0	21.9	22.2	22.5	22.9	23.3	23.8	24.4	25.0	25.6	26.1
人口増減	(人)	△ 21,623	△ 21,667	△ 21,676	△ 21,646	△ 21,599	△ 21,662	△ 21,562	△ 21,423	△ 21,283	△ 21,110	△ 21,025	△ 20,963	△ 20,891	△ 20,800	△ 20,693
日本人	(人)	△ 22,032	△ 22,075	△ 22,084	△ 22,054	△ 22,007	△ 21,934	△ 21,833	△ 21,694	△ 21,554	△ 21,381	△ 21,202	△ 21,140	△ 21,068	△ 20,977	△ 20,871
自然動態	(人)	△ 17,997	△ 18,140	△ 18,249	△ 18,325	△ 18,397	△ 18,435	△ 18,451	△ 18,436	△ 18,401	△ 18,322	△ 18,231	△ 18,244	△ 18,241	△ 18,207	△ 18,149
出生数	(人)	9,475	9,367	9,248	9,113	8,964	8,803	8,628	8,440	8,239	8,028	7,811	7,589	7,365	7,142	6,925
死亡数	(人)	27,472	27,507	27,496	27,438	27,361	27,237	27,079	26,877	26,640	26,350	26,042	25,833	25,606	25,349	25,074
社会動態	(人)	△ 4,035	△ 3,935	△ 3,836	△ 3,729	△ 3,610	△ 3,499	△ 3,382	△ 3,258	△ 3,153	△ 3,059	△ 2,972	△ 2,896	△ 2,827	△ 2,770	△ 2,722
外国人	(人)	408	408	408	408	408	271	271	271	271	271	177	177	177	177	177

備考：2020年の人口は総務省「国勢調査」の不詳補完値